明治四十二年十二月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百四十一號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百四拾壹號目次

明治四十三年一月

新年會通知

來る一月十五日(第三土曜日)午後二時より新年相互の禮を兼ね神田一ッ橋通り女子職業學校内に於て新年會相催し左の餘興も有之候間御知友御誘引御來會有之度此段御通知申上候也

一餘興　講談　眞龍齋貞水

明治四十二年十二月

私立大日本婦人衛生會

小杉天外作

小説 草笛

寫實主義の完成者自然主義の最初の唱導者が十八年間の勞作中より得意の篇を拔いて此の草笛は成れり。

全一冊菊判
總クロース
金線箱入
廣瀬蕁常飯
澤天羊二青
年畫家意匠
最新式美裝
紙數六百九
十頁
正價金貳圓
送料十二錢

後藤宙外作

小説 冷淚

現代青年の胸中の秘密を曝露せる作也、現代中年者の戀と活動と淚と惝悅とを描破せる作也、中年婦人の自負と弱點と若き女子の甘夢と苦闘とを具象化せる作也。

全一冊菊判
美裝鰭崎英
明君意匠
紙數四百頁
正價
金八拾錢
小包料
八錢

小杉天外作 寫實小說 **コブシ**

菊版全三冊 紙數千二百頁 前篇七版 中篇五版 後篇三版 クロース美裝 正價每篇壹圓宛 送料各十二錢

昇曙夢譯 露國名著 **白夜集**

菊版全一冊 紙數二百八十頁 クロースゴリキイ式美裝 正價金壹圓 小包料八錢

發行所 東京市日本橋區沿屋町拾四番地 **章光閣** （長電話本局二〇八五番 振替口座竹澤章五八九二番）

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを旨ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども大の衛生の事に至りては更に注意を盡さゞるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の談義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は場合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　本規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に頒附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵劵にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵劵送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麹町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地
私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木繁子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敎子
同　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　服部繁子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　土肥多鶴子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子

評議員　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
同　山口貞子
同　子爵夫人　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別賛成員

（いろは順）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　石川千代松君
醫學士　石原久君
醫學士　石原喜久太郎君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
ドクトル　伊澤信平君
醫學博士　伊東祐彥君
色川圀士君
岩井禎三君
藥學博士　石津利作君
醫學士　磐瀨雄一君
長谷川泰君
法學博士　鳩山和夫君
萩原彌四郎君
醫學博士　林春雄君
原胤昭君
醫學士　橋本左武郎君
醫學博士　濱田玄達君
男爵　濱尾新君

醫學博士　芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル　西山信光君
本田增次郎君
醫學士　鳥居春洋君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大野豐太君
醫學士　大西秀治君
子爵　小笠原長生君
ドクトル　小此木信六郎君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士　緒方正規君
醫學博士　大澤岳太郎君
醫學士　渡邊房吉君
醫學博士　加藤照麿君
文學博士法學博士　男爵　加藤弘之君
醫學士　河野衛君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　賀古鶴所君
醫學士　樫田龜一郎君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　甲野棐君
醫學士　米山彥郎君
横井忠國君
醫學博士　高橋順太郎君
男爵　高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士　高田畊安君
ドクトル　高山紀齋君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　田代義德君
醫學士　田村光顯君
醫學士　田村化三郎君

醫學士　竹中成憲君
藥學博士　丹波敬三君
法學博士　高木豐三君
醫學博士、男爵　高木兼寬君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　土田卯三郎君
男爵　辻新次君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學博士　長與稱吉君
藥學博士　長井長義君
男爵　南部熊男君
醫學博士　能勢靜太君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　栗本庸勝君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　吳秀三君
醫學博士　山田鐵造君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
ドクトル　山上猴輔君
ドクトル　松山陽太郎君
丸山長四郎君
ドクトル　富士川游君
布施正顯君
男爵　後藤新平君
醫學士　古川榮君
小高眞造君
小西信八君
醫學士　寺田織尾君
醫學士　寺田豐作君
寺田勇吉君
醫學博士　朝倉文三君
子爵　秋元興朝君
足立寬君
ドクトル　朝山義六君
醫學士　淺田決君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學博士　榊順二郎君

醫學博士　榊保三郎君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　佐藤三吉君
齋藤滿文君
醫學士　笹川三男三君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐藤運雄君
醫學士　佐藤德齋君
醫學士　澤崎寬制君
ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　木下正中君
醫學博士　桐淵鏡次君
醫學博士　木村德衞君
醫學博士　北島多一君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學士　北村樹造君
醫學博士　北川乙治郎君
ドクトル　菊池循一君
醫學博士　三輪信太郎君
醫學博士　宮本叔君
宮本仲君
宮川保全君
理學博士　箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三浦謹之助君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三浦守治君
島田三郎君
ドクトル　志村破麿君
醫學博士　島村俊一君
ドクトル　日高昴君
醫學博士　弘田長君
伯爵　土方久元君
醫學士　百瀨玄瑗君
醫學士　森田正馬君
文學博士醫學博士　森林太郎君
醫學士　澄川德君
ドクトル　須田卓爾君

婦人衛生雜誌第二百四十一號
（明治四十二年十二月二十日發行）

講演

育兒衛生に關する二三の注意

醫學士　吉井丑三郎

唯今相馬君から人口增加に就ての有益な御話がありました、人口の繁殖すると云ふことは國家將來の爲めに隨分必要なことでありまして、國家を盛ならしむる爲めに人口の繁殖を計らなければならぬが、それには身體から云ふても、精神から云ふても有力なる小兒を作らなければ、國家は立派なものにはならぬ、私の御話しまするのは育兒衛生、詰り生れました小兒を國家のために有力なる人間に仕立て上げるそれに就ての御注意であります。

育兒と云ふ事は小兒の精神上、或は身體に就て雙方共に充分に發育させると云ふのが其の本分であります、從て隨分是は大きな問題で、迚も此處で僅かな時間で申述べることは出來ないのであります。

其精神上の事は心理學上、特に兒童心理學と云ふもので研究して居るのであります、それから體育上の事は兒童衛生と云ふやうなことで研究しまする、又醫學上からは小兒科と云ふ分科を拵へて、小兒の體のことに就て專門に研究して居る有樣で、隨分重大な問題とされて居ります、此精神及び體育上の事は恰も車の兩輪の如きもので迚も離れることの出來ないものである。精神の發育許り充分に行きましても體の發育が充分に行かないと云ふ場合には是は役に立たないのみならず、さう云ふことは先づ無い譯であります、昔から謂ふ所の健全なる精神の發育はどうしても健全なる身體の發育に俟たなければならぬ

のであります、故に悧巧な學識卓越なるところの人を仕立てるには矢張身體の丈夫な者でなければならぬのでありますから、どうしても體育と云ふことは忽せにしてはならぬのであります、此體育の事も亦却々廣い問題でありますから、之を狹めて御話すると云ふことは困難でありますが、私の專門に研究して居ります學科卽ち耳鼻咽喉學科上から見たところで私の感じたことに就て二三申上げたいと考へるのであります。

全體咽喉や鼻は體の中で極く狹い部分ですから餘り大した關係もない重大なことでもないと云ふ風にも考へられるが併し是は大きな間違で、耳鼻咽喉は是は榮養の門戸であり、又知識の門戸であります。

吾々は毎日物を喰べるが、それは口から咽喉に入りそれから食道を通つて胃に入るのである、吾々の榮養に大切な空氣は鼻から咽喉に入り進んで肺に達するのである、自分の意志は咽喉及び口で言語を作つて發表し、他人の意志で言語に現はれたものは何所で聽くかと言へば耳で聽く、之れが重大なる事である卽ち人は日常其微細なる意志（喜怒哀樂も含んで居ります）を現はすに文字にするより口を以てする方がどれ丈多いかわからぬ、それ等を識別して微細に觀察し、いろ〳〵な經驗を積んで段々悧巧になるのであります、皆が皆悧巧になるとは定まりませぬが……（笑聲起る）故にそれらの耳なり鼻なり咽喉なりに故障のある小兒は決して充分な發育は出來ぬだらうと思ひます、實際耳が遠かつたり何かしてあまり悧巧な者はありませぬ（笑聲起る）。

小兒に於て注意しなければならぬのは大人と違ひ咽喉なり鼻なりの部分の惡るかつたために死亡する數は大人よりも其割合が多い事である、故に大人では左程でないと云ふことも小兒にはそれに依つて死亡することが多い、ですから殊更に小兒に向つて注意しなければならぬのであります、特に小兒は大人の如く物が分りませぬから、母として常に附いて居る者は始終微細に觀察することが必要であります。

先づ私は順序として耳から御話いたします、耳で一番注意しなければならぬのは耳漏であります、是は從來餘り重大視されて居らぬ場合が隨分ありますのみならず、地方に參りますと是は胎毒が出るのだから出た方が宜いのだから出るだけ出した方が宜いと言つて構はないが、是は大きな間違で、もうさう云ふことを此席で述べる必要もありませぬが、是は中耳炎と言ひまして耳の中の或部分に疾患を起したのである、それは頭の中の大切な機關に接近して居る部分の病氣である、其病氣のために膿汁乃至粘液が出て來るので、決してさう有難いものではないのであります、ですから段々病症が激くなると其周圍の骨を腐らし、深く進んで行つて仕舞には頭蓋骨から腦を冒す樣になる、さうしますると恐ろしい腦膜炎を起し、遂に不幸な終りになるのであります、縱し幸にして命を保つたところが聾者、聽くところの力が鈍い、是では到底國家のために必要なる人間となることはむづかしからうと思ひます、ですからさう云ふ耳漏などの時には決して等閑にしてはならぬ、病の進まぬ中に手當をして戴きたいのであります。

其次に耳の痛む事、是は何誰でも同じことですが耳の痛い時には中々堪へられない、そこで手取早く何か素人療治をやる、それも害の無いことなら宜いけれども危險なことをする人がある、或は油を入れるとか、水を入れるとか、甚しきは昆蟲の類を油に混じて入れる、或地方に行きますると耳の痛む時には油の中に蟬の拔殼を入れて差す所がある、そんな不潔な物を差込でそれで決して痛みが癒るとか、有效であるとか云ふことは到底あり得べからざることである。それがために癒るところの病氣もさう云ふことをするために癒らぬ、或は病を非常に進めると云ふこともあります、ですから餘程注意しなければなりませぬが、何しろ却々苦しいものでありますから醫者の來るのを待てぬと云ふ場合もないとは言へませぬ、さう云ふ時には一番有益で無害なのは耳の邊

を冷やす、耳に水が入らないやうにして冷やすさうして痛を和らげて置いて醫者に診て貰ひ其差圖に從つて處置するが一番宜しうございます、或は又冷す代りに硼酸水か何かで暖めて痛の無くなることもありますから冷す代りに暖めても差支ない、差支ないどころではないそれが爲めに痛みが癒ることもありますので、素人の手當として差支ない法でありますから一寸一言致したのであります。

それから鼻及咽喉、是は引括めて御話致します、是は小兒でも大人でも同じでありますけれども、小兒には特別の意味があります、詰り咽喉なり鼻なりが惡るいと云ふことが精神及び身體の發育の障碍となり、又咽喉なり鼻なりが惡いために耳が惡くなると云ふことがありますから、小兒には特別に注意しなければならぬのである。

先づ咽喉、鼻の障碍の中で必要なのは鼻の詰る事、即ち口を閉て鼻で息の出來ないことであります、其鼻で呼吸の出來ないと云ふことが惡い、鼻が詰つて口で呼吸をすると云ふことが惡いと云ふことに就ては昔から隨分是は八ケ間敷い問題なので、取立てゝ私が此所で申述べなくつても既に皆さんは或は雜誌なり、講演で御聽きになつたりして被居いませうが、事を解り易くする爲それに就て私が敷衍して申します。

鼻が詰つて口で呼吸をするために惡いと云ふことには直接に害を受けるところと、間接に害を受けるところと二つがあります。

直接に害を受けるところは何所かと云ふと咽喉、それから延いては氣管、氣管枝、肺と云ふ順序で、何故に口で呼吸をしてはいけないと云ふのは、是は人間はどうしても鼻で呼吸をしなければならぬからである、即ち生理上さう云ふことになつて居る、何故かと言へば鼻は皆誰れでも斯う云ふ風に顏の眞中に飛出して居つて隨分大きい(笑聲起る)そうして小さい穴が兩方に開いて居る、其孔の入口には鼻毛が生へて居る、其鼻の中は—即ち鼻腔は入口の小さい割

に非常に大きい、其大きい部分は總て粘膜と云ふて外皮と違つた膜で蔽はれて居る、其鼻腔が大きい上にいろんな屈曲がある恰度眞直ぐな海岸線よりも曲つた海岸線の方が海岸線が長いと同じやうに、鼻腔も屈曲して居るから益々粘膜面が大きくなる、其大きい粘膜面に粘液が始終出て居りますから、空氣が先づ鼻の小さい孔から入つて大きい粘膜面を經る間に必要の變化をして咽喉に入るのであります。

先づ空氣—外氣は言はゞ不遠慮なもので、當りも何も構はない荒つぽい、其荒つぽいものが鼻の中を通つて行くと、それがために變化をして極く優しい、都合の良い形になる、之を具體的に御話して見ますと、外氣は溫度から言ふても、濕度から言ふても、不潔なる塵埃を含んで居る點から言ふても、其他有害物の混つて居る點から言ふても、決して何時でも吾々の身體に適當な良き形を有つて居るものと云ふことは出來ませぬ、殊に冬の寒い日、東京のやうな所で空風が吹いて埃りが立つと云ふ時には、是は誰が考へても宜いとは思はぬ、それが鼻腔を通過する間に其妙作用に由り適當な濕氣と溫度が與へられるそれからいろんな惡い物が漉される、さうして純粹の清淨な性質になつた其ものが咽喉に入るのですから、とても鼻を通つた空氣と通らない空氣とは比べものにはならない、さうすれば今鼻が詰つて口で呼吸をしなければならぬと云ふ時に受ける害はどうでせう、もう詳しく說明しなくつても御分りになるだらうと思ひます、詰り惡るいところの……惡いとは言ひませぬが不潔な物を含んだ空氣が入つて來ると病に侵され易くなると云ふことはもう明かな事であります。

一寸分り易いのは鼻が詰つて口で呼吸をして居ると寢苦しい、ウツトリして眼を覺して見ると口や咽喉がヒリヒリしてものを言はうとしても暫くはものが言へぬと云ふことがあります、是は能く經驗するところのほんの一例に過ぎないが、事實口で呼吸をする爲めには咽喉加答兒を起したり、氣管を惡くした

り恐るべき肺患にかゝり易くなるのであります。

此事に就て或る西洋の學者は實驗に由て證明したことがありました、人間でする譯には往きませぬから動物を用いました、即ち動物をたくさんにかつてをいて、其一部分は鼻を塞いで口許りで呼吸するやうにし、一方は鼻で呼吸の出來るやうにして置きまして種々の實驗をやりました、それに依ると鼻で呼吸の出來なくした方の動物が病氣になる割合が多い、此に反して鼻で呼吸をして居るものは何時も其割合が少ない、是は試驗的にさう云ふことをしたのでありますけれども人間でも必ずさう云ふことはあり得ることゝ信じて居ります。

それから間接の方の害は神經症狀で、平たく申しますとボンヤリして居る、物事をするに何時も根氣が薄い、頭が重い、頭痛がする、氣が散り易く、怒りッぽくなる、或は痺れが切れる、手足が痺れる、知覺が惡くなる、安眠が出來ない、動悸がするとか云ふ、一寸申すと神經衰弱のやうな狀態なのであります、是は大人のことですが小兒に若しさう云ふ風に鼻が詰つて口で呼吸をしなければならぬと云ふ狀態になつて時には其害は一層激いのであります、何故かと申すと小兒ですからして、木で言へば嫩葉のやうなもの、是から段々大きな立派なものにならなければならぬのに斯う云ふ障りがあつては決して充分な發育は出來ないのでございます。

其鼻の詰ると云ふことには勿論いろんな原因がありませう鼻自身が惡いと云ふこともありませうけれども、小兒のはそれと少し趣が違つて咽喉の病氣で來ることがあります、それは咽喉の脇に扁桃腺がある其扁桃腺が腫れるために鼻が詰ると云ふこともある又鼻咽腔と申しまして鼻の奧の方に當る部分の病氣の爲に來る事もあります、それ故さう云ふ小兒がありましたならば、何時でも注意して醫者に診て貰つて、其害を除いて貰はなければなりませぬ、斯う云ふ部分の病氣は一寸醫者でも診落すやうなことが無いとは言へない位ですから勿論素人には分りませぬ

が念のためさう云ふ小兒に現はるゝ狀態を擧げて見ますると、先づ呼吸が荒い、普通の小兒に比べると非常に荒い、殊に睡つてから荒くなる鼾聲が強い、それから眠りが靜かでない、と同時眠りが深くない又寢て居つても起きて居つてもよく咽喉がゴロ〳〵云ふとか、ゼイ〳〵云ふとか、或は咳が出易なる、或は涎が餘計出るとか、顏の形が少し變つて來る、それは前方の頰が少し殺げるやうになる、鼻汁が出る、さう云ふ小兒は口を半分開けてボンヤリして締りのない顏をして呼吸をして居ると云ふ狀態であるから、それだけに御注意になれば能く分ることであります。

さう云ふ小兒が段々大きくなると小學校に行くやうになつて敎場に出ても先生の言ふことが分らない、注意力が足らないから分らない、物覺が惡いから他の普通の小兒のやうに進步しない、ことに依ると咽喉などが惡いために……一番初めに申しました耳漏……中耳炎なども來ることがある、又感冐を引き易い、隨て氣管或は肺などの病氣に罹り易い、或は少し途が違ふやうでありますが食物を消化す機關の消化器の病氣も來易いのであります。

さう云ふ有樣で小兒が大きくなつたところで迚も國家に有力なるところの人にはならないのであります、デ今日は皆さんの母としての慈愛の心に訴へ、之を大にしては國家の爲めに私は切に望みまするのは常に御自分の小兒さん方の狀態を御注意になります事であります。而して少しでも異狀があることが御氣注きになりましたならば直ぐ手當を爲され、醫を訪ふて其忠告に隨つて處置を爲されんことを御勸め申します。

叢談

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（三一）活ける家の賊（下）

酒と煙草は活ける家に侵入する大賊强盜であるが、同じく健康を盜み去らうとして忍び入る鼠賊狗盜の輩も少くない。而かも日常平然として出入して居る曲者は

支那から渡つた茶

と云ふ奴で、吾々の腦神經細胞を害して其勢力を殺ぎ去ることが甚しく、又胃の消化を妨げ榮養を害ふこと少くない。濃く煎じた一杯の茶の中には、一・五乃至三ゲレンのカフエインと云ふものと、十乃至二十割のタンニンと云ふものとを含んでゐる。カフエインは諸細胞の毒、タンニンは食物消化を害する所のものであります。

茶は食物で無い

食物たるべき榮養素を含んで居らぬ、體内に入つても組織の構成に資する所は少しも無い。

茶は興奮劑である

疲れた時に之を飮めば元氣は出る、元氣は出るが其後で一層疲れがひどくなる、云はゞ疲れ切つた馬に加へる鞭である、鞭に打たれて元氣を出して馳け出しはするが、あとで倒れる程になる。疲れた時に休息するのは生理上の要求、衞生上の方則である。抑も疲勞と云ふものは身體細胞内の物質が消費されて起るもので、此消費が他の新しい材料で補はれて仕舞はなければ、到底恢復と云ふことが無い。故に吾吾は精神にまれ身體にまれ、疲勞を感じたと云ふ時には、宜しく速に休息して其恢復を願ふべきであります。然るに茶は疲れた心身を欺いて、其疲れて居ることを忘れさせ、疲れ果てるまで働かせ、其極身

體の不調和を招く。

毎日々々濃い茶を飲んで居る人は、數年の後になつて其氣力の消耗して忍耐持久の精神に乏しくなつたのに氣が付く、これは神經力が甚だしく消費された爲め所謂氣短かになつたからで、尚ほ續けて此賊を却けなければ遂には手は顫へ、頭痛はし、心臟は亂調子になり、貴い夜毎の睡眠さへも味はれぬやうになる。茶を飲んで夜眠られぬと云ふのは、全く茶の興奮作用によるのであります。就中神經の鋭敏である小兒や青年には、茶は大なる禁物である。飲んで割合に害の少ないのは四十歳以上の人でありませう。

要するに茶を飲むにしても量を過ごさず、時を過またず、濃淡そのよろしきを得べきであります。

咖啡

は今や全世界に行き渡つて居る嗜好品の一つであるが、其本國はアラビヤであります。咖啡も茶も同樣な作用を身體に及ぼすもので、人々が之を飲用するのも亦茶と同樣な場合であります。咖啡の中に含まれて居るタンニン及びコフエインの量は、茶の中にあるよりも少ないが、通常甚だ濃いものを用ふるから、身體に及ぼす結果は同樣であります。咖啡の中には多少の脂肪をも含んでゐるが、此脂肪は甚だしく不消化で、身體の榮養には何等の資する所がない。

茶と咖啡とは虚言者である

胃の中へ入れば之を滿たして、他の食物は要らぬやうに思はせる。所謂『茶腹も一つとき』と云ふ諺の通り、飢餓の念を忘れて須臾食物を攝らずにも働らかせる。之が爲めに身體は今後使用すべき活力を前借りして現時の急に間に合せる、斯かることが度重なれば、勢ひ身體に於ける活力の經濟が亂れて來て、何時健康の破産と云ふ破目になるかも知れぬのである。

阿片

は國法で確く嚴禁してあるから、我國人には之を用

ふるものはないが、支那朝鮮などの國民は之を用ひて體力を破りつゝあるものが尠くない。阿片とは亞細亞產の罌粟の頭の不熟なのを搾り取つた汁で、其中にはモルヒネと云ふ强い毒を含んでゐる。モルヒネとは

　　モルヒスと云ふ眠りの神

になぞらへた名で、少量に之を飲めば精神恍惚として何時か睡魔に導かれ、多量に之を飲めば永き眠りに陷つて最早や醒めぬと云ふ狀態を示してゐる、モルヒネは疼痛を鎭める作用がある、身體の何處か痛い時に之を飮まばすぐに鎭まる、然り單に鎭めるばかりで全く痛みを去ることは出來ぬ。蓋し疼痛の原因には種々あるが、モルヒネは此原因を取り除けるものではなく、只精神を痲痺させて之を感じさせない迄である。故に痲醉から醒むれば再び疼痛を感ずるのである。由來

　　疼痛は身體に對する警戒の聲である

何處にか惡い所があるから之を治さねばならぬと云ふ警告である、吾々は宜しく此警告に從つて適宜の處置を施さねばならぬ。然るにモルヒネは此警戒の叫びを止めて、而かも其病源には見向きもせぬ。故に痛いと云ふ感じは除れるが、病氣は刻一刻に進行して遂に手の附けられぬやうにもなる。昔は聖人が叫んで云つた

　　汝等創を淺く癒して安し〳〵と呼ぶ

と、阿片及びモルヒネも、病氣のある時に安全を稱へ、危險のある時に平和を叫ぶ曲者である。我々はよろしく斯かる曲者を、活ける家の中へ入り込ませぬやうに注意すべきであります。

睡眠と不眠の療法（承前）

神尾驥子

　　睡眠中呼吸脈搏は遲くなります

睡眠中は心の働きこそは休んで居りますが、身體を養ふに缺く事の出來ない呼吸、心臟の働き等は休む

事がありません、其が休んでは死んでしまいます、併し之等も醒覺時から比べますれば、餘程働きが少くなつて居ります、一分間に呼吸する數は、ゴルハムといふ人の檢査によりまするに、三四歳の小兒は平均三十二回でありますが、睡眠時は僅かに二十四回となるそうであります。

脈搏も數が少く、心臓の働きは大に鈍ります、冬眠と申しまして、所謂冬籠をする動物にては殊に著しいものであります。

睡眠中身體は冷えます

睡眠中は筋肉の運動が少くなります爲めと、腦の中で溫熱を作る事を司つて居る神經細胞も休息する爲めとで、人の體溫は著しく下降致します、假寢をして感冒に罹るのは此爲めであります、殊に夜間は周圍の溫度も低いのでありますから、睡眠中身體を充分に暖かに保つ事に注意せねばなりません。

消化作用は睡眠中鈍くなります

四肢の筋肉が働かないと同じ樣に、胃腸の働きも非常に鈍ります、胃腸は平生は一定の運動を營んで居りまして、其運動により食物を胃より腸へ、腸より肛門の方へと送り出すものであります、睡眠中は此運動は鈍りますから食物が長く一所に止つて居ります、そして消化液の分泌も止みまして、消化作用も營まれぬのでありますから、胃や腸の上部に遲滯して居る間消化の食物は數時間の後は腐敗致します。

腐敗した食物を食べたのと、胃の中で食物が腐敗したのとは同じ結果を起すものでありまして、種々の有害な影響を惹き起します、殊に子供にては其結果が恐しいものでありまして、就眠前に食事をさせた爲めに小兒が夜中に痙攣を起す事は少くはありません、左程でなくとも胃腸を害するは申す迄もない事であります、故に寢る前にはなる可く空腹なのが宜しいのであります。

眼を開いて眠る人があります

通常の人は眠つて居る間は眼瞼を閉ぢ、眼球は少しく上の方に向つて、瞳孔は狹くなつて居ります、眼

が覺めると直ぐ瞳孔は非常に大きくなりますから、起きたばかりの人の眼は少し妙に見えます、世の中には然し眼を充分閉ぢないで、少し開いて眠る人があります、多くは生來のものでありますが、眼病神經病等の結果である事もあります、斯樣な眼を兎眼症と申します。

人の眼球は常に涙を以て濡されて居りまして、少しでも乾いたり、又は塵が飛び込む時は、瞬きをして涙にぬれて居る眼瞼で拭ひ去るのであります、睡眠中眼瞼が充分に閉ぢてなかつたならば、外に曝されて居る眼球の部分には塵埃が落ち込み、又乾く事がありまして、種々の眼病の種子を蒔くものであります、注意せねばなりません。

此兎眼症は小兒の時から母、乳母等が注意して、眠つて居る間に眼を閉ぢさせる習慣を作る樣に勉める時は豫防する事が出來ます、成人してからは容易には治癒致しません、若し眼を開く事甚しい人は眼科醫の療治を受けましたなら、禍を未然に防ぐ事が出來ませう。

口を開いて眠る人あり

口は睡眠中は閉ぢ、呼吸は鼻よりするのが普通であります、併し中には口を大きく開いて眠つて居る人があります、此れは其寢顔が醜いばかりでなく、衛生上注意すべき事であります、元々口は呼吸道でありませんので、人間は時々已むを得ぬ時に用ゆる事が出來る丈けであります、其れ故種々の害を起す基となるのであります、其れは鼻と口の構造を考へて見ると直ぐ明になるのであります、少し横道でもありませうが、次に一寸御話し致しませう。

鼻は篩の代りをなす

鼻の入り口には澤山の鼻毛が生えて居りまして、吸ひ込む空氣の塵埃を濾すこと、丁度篩の樣であります、世の中には鼻毛を剃る人がありますが、大なる誤であります、鼻の中の通路は狹く且つ複雜して居りますから、其間を通る間には小さな埃は其粘膜に附著して、肺に入る空氣は外の空氣よりは大に清

くなつて居ります、所が口から入る空氣は篩で漉さるゝ事もなく澤山の塵埃を有つて居りますから、喉頭氣管等を害する危險があります。

鼻は空氣を暖める

鼻の通路は細く長い爲めに、外界の寒き空氣も、此所を通る間に暖められて、咽喉に達する頃は冷い空氣ではないのであります、所が口は廣いものでありますから喉頭に達する迄に、空氣は暖めらるゝ隙がありません、故に口より呼吸する時は感冒にかゝり易く又喉頭加答兒、氣管枝加答兒などになり易いのであります。

鼻は空氣の濕氣を增す

乾燥した空氣は喉頭氣管の粘膜を刺擊して加答兒を起します、鼻は之を防ぐに最も適當なるものでありまして、鼻の中を通る間に外界の乾燥した空氣も充分濕潤いたします、口より呼吸した場合には之も不完全であります。

其外口を開いて眠つて居る事は、呼吸する事の害ばかりでなく、不潔物、昆蟲等が突然其の大きな洞窟の中に闖入する危險があります、大きなものなれば喉頭を閉塞し、小さなものは肺の中に飛び込んで肺炎を起す事があります。

口を開いて眠る人は鼻を診て貰ふ可し

口を開いて眠る原因は種々でありますが、最も普通にあるのは習慣によるものと、鼻腔及咽喉に病氣のある人とであります、でありますから斯かる人は早速專門醫師の診察を受け、其の有無を確め、若し疾病がありましたなら速かに治療を受けなければなりません、殊に十歲前後の小兒には扁桃腺肥大と申す病氣がありまして、其の心身の發育を妨げ、生れもつかぬ癡愚となす事がありますから、子の母たる人は注意せねばなりません。鼻が健康であつたなら、其の口を開いて眠るのは習慣か天性でありますから、周圍の人にも注意して貰ひ、自分でも充分に注意して、口を閉ぢて眠る習慣を作る事が肝心であります、軟き紐にて顎を輕く頭

に結ひつけて眠るのも宜い方法であります。

睡眠の原因は何であるか

以上は主に睡眠中の生理的の事を申し上げましたが不眠の事を御話する前に睡眠の原因を一寸御紹介致しておきませう。

睡眠の原因は心身の疲勞である事は疑もありませんが、疲勞する時は何故睡るかといふ事は六かしい問題でありまして、學者も頭を惱まして居るのであります、然し就中最も勢力のある説は腦貧血が眠りを起す原因であるといふので、身體が疲勞する時は、其の疲勞を恢復する爲め血液が其の器管又は筋肉に集り、一方の腦は貧血を來して眠りを催すのであるといつて居ります、睡い時には欠伸が續出致しますが、此欠伸は腦貧血の起つた時に出るものでありますから、此説の一證ともなるのであります、又動物に就ては解剖の上眠つて居つた動物の腦は貧血して居る事が認められて居ります。

けれども腦貧血が果して睡眠の原因であるか、其れは斷言する事が出來ません、睡眠の原因は少くとも腦貧血ばかりではなく、外の原因もあるのだらうと思ひます、或る一派の學者は大腦の神經細胞が疲勞する時は變化して眠りとなるのであると申して居ります。

人は少しも眠らなかつたなら如何なるか

睡眠の原因は疲勞であるならば、其恢復には是非なくてはならないのはいふ迄もありませんが、若し少しも睡らなかつたなら如何なるでせうか、犬は其眠りを妨げておきます時は、非常に疲勞せる如くなり體溫は降り、運動鈍く、遂に凡百二十時間即ち五晝夜で死にます、犬は比較的多く眠る動物でありまして、其一生の三分の二以上は眠るものでありますから、其の睡眠を妨ぐるのは人間以上の打撃でも御座いませうが、併し其は犬のみではありませんで、人も同じ様に一週間も全然眠らなかつたならば永き眠りに陷りて再び醒めません、此れは精神病患者に

往々實見せられます。

睡眠不足は如何なる結果を來すか

次で全く眠らぬのではなく、眠る事が少なかつた時は如何でせうか、此は何誰も度々經驗さるゝ事でありませう、最も輕い時は頻りに睡氣を催し、欠伸が連發する位でありますが、更に度を進めて、一夜徹夜などを致しましたなら、眼は充血して赤く、眼瞼は重く、全身の都合惡しく不快に、何か勞働でもなせる如く疲勞し、何事に對しても興少く、物憂く、食氣進ます、胸元あしく、嘔吐をさへ催します、眩暈も起り頭痛も致します、呼吸は忙しく、脈搏は速くなりまして八九十乃至百に達し(通常七十内外)、體溫は多少上りまして、時には惡寒を感じます。猶平生より感じ易い人でありますれば、症狀は之れに止らず、頭痛眩暈は甚しく、精神は朦朧として霧に包まれた樣てあります、進んで事を成さん氣も出なければ、退いて物を考ふる事も出來ませず、記臆力は著るしく減じ、身體は綿の如く疲れ、丁度重い病氣の始めか終りの樣な狀態に似て居ります、でありますから種々の疾病の原因とも手引きともなるのであります。

斯くて眠られぬ事數日に渡りますれば、身體の衰弱加はり、脈搏は遲くなりまして一分間四十以下にも下り、體溫亦低くなり遂に不歸の客となります。

人は一日何時間の睡眠を要するか

前述べました通り睡眠は心身の恢復に缺く可からざるものでありますが、其の眠らなければならない時間は何れ程でありませうか、此間に答ふる事は容易でありません、不足は勿論惡るいが、過ぎたるは又及ばざるが如くでありまして、不快な結果を起します、一般に申しますれば、小兒は大人より多く、勞働者は働かぬ人より多く、心身を勞する事多い人は終日遊び暮す人よりも多く眠なければなりません。俗にもよく眠る小供はよく育つと申しますが、小兒の成長にはよく食ひ、よく眠り、よく遊ぶ三つの事が大に必用なのであります。

一晝夜に人の眠らなければならない時間を計つた人がありますから茲に其大體を擧げておきませう。

初生兒	二十時間以上
一歲の孩兒	十七乃至十八時間
五乃至六歲頃	十二乃至十三時間
八乃至九歲頃	十時間內外
十二三歲以上	九時間內外
大人	六乃至八時間

此によつて見ますれば、初生兒は乳を飲んで居る時の外は眠つて居るのでありまして、然らざれば健康を害します。又一般に婦人は男子より多く眠るものであります。

（以下次號）

なぜ壽命に長短あるか？（承前）

又死があるか？

醫學士　B。F。生

（b）分裂力は無限なり

分裂力減衰の爲め死が來ると今云つた、今分裂力が若し無限であれば死は來ない筈である、然るに死ぬる。元來は分裂力は無限であつたのである、細胞はそれ自身は永久に分裂する力があつた、決して死なないものであつた、しかるに年老いて人類に不必要な年齡となるに及び、長久性を失うべく境遇が強ひたのである。初め永久無限に分裂する力があつた事を證明する爲めアメーバーを引照し、それから人間に說き及ぼして見よう。

アミーバー、滴蟲類は、強熱、劇藥等なき限りは、永遠無窮に生きるものである。中でもアミーバーの分裂法は深く硏究されてゐる。初めイなるアミーバーが分裂してロハとなる、イなるものは同時になくなる、今イは死んだと云ふ事ができるかどうか、死んだとするなら死骸はドコにある？何が死んだ？イは二ツに分裂した丈けである。しかしイなるもの丶個性は全くなくなつた、卽はちイは死んだでないかと云ふ論者があるかも知れないが、そう云へたにし

てもその死は只抽象的である。若しアミーバーに自己意識があるものとすれば、イは『私は今娘を產みます』と云ふであらうか。ロが親か？ハが親か？。恐らくロもハも自分は親で他は娘だと思つてゐるだらう。どちらとも云ひ得る樣で、又云ひ得ない樣である。結局親子の別なし、死なしと云ふ事になる。

單胞細動物アミーバーは永生である、人間はその細胞から出來てゐる。然るになぜ人は永生でないか？黑岩氏の天人論にもある如く、高等動物の體は分業的にできて居る。則はち體が太くなるに從ひ、生殖する細胞と、榮養を司る細胞とが分かれた。生殖細胞はアミーバーの如く、無窮に生きて行く、此の意味に於て吾々は神武天皇、神代よりも以前から、永遠の未來へかけて無窮である。

（c）何故分裂力が有限となつたか？

無窮性を持つてゐる生殖細胞から、生長して來た吾我は何故無窮でないか？

進化の程度が低い鯢魚は足尾を切つても又新らしくできて來る。蝸牛の觸角や目を切り去つても同樣である。所が分業が複雜になつて甲の組織と乙の組織とが全く似もつかない樣になつて來れば、甲が負傷したからつて乙は代理して與れない。例へば指一本切つても、モー新らしくは出來ない樣になつた。分業をし初めたと云ふ時から、生殖細胞とならなかつた榮養細胞は永久性を失つたのである。卽ち分裂力が有限となつた。有限となつた理由を說明する爲め實驗報告を照介せう。

アミーバーが交尾して後は勢よく分裂する、分裂する每に皆を別々の器に分けて置く、すると幾百十回で分裂する力が全くなくなる、それと共に悉く死で仕終ふ。今分裂力がまだ全く失はれない內に澤山を一ケ所に置けば、弱つたものでも交尾しますると又新しい元氣ができて、俄に活潑になり分裂する。

人間では生殖細胞は永性を持つて居るが、同じ永性ある卵から元は起つてゐても、分業して榮養細胞となつたものは、その瞬間から永久に生きる事が不可

能さなつた、なぜなれば、交尾に相當する細胞の合體をする事は生殖細胞以外の營養細胞には不可能となつたからである、換言すれば『吾れ』と意識する我が肉體は、分裂が進むと共に、遂に分裂力を失ふからである。然し乍ら、分裂力を失ふに至る年月は百年や二百年ではきかない、何百年以上であらう。分裂力がなくなると云ふ極限まで生きてゐるものはない。人は凡べて有終の美しさを全ふし得ないのである。吾々はよし分業によつて無窮性を失つたにしても、なぜ分裂し得る極限迄進み得ないか、吾人は細胞體内何處にも、その理由を發見し得ないのである。勢ひ吾々は細胞體外にその理由を求むるのである。則はち、前に述べた境遇說の妥當なるを認むるのである。境遇は種屬保存上必要なものを存せしめ、不必要のものを取り去ると云ふ原理が支配するものである。すると目覺ましい活動家慈善家等は人類に必要だから、分裂力の續く極限迄長生きしてもよい樣であるが、種屬保存上と云ふからには、生殖、育兒上必要なものでなくてはならぬ。吾人が此の宇宙の空間を充たしてゐる以上は、必らず外界に接觸してゐる、外界は絕へず變化しつゝある、勢ひ災厄を免るゝ譯に行かぬ、輕微の危害も積り積つて、遂に『死』と結晶するのである。輕微な危害が加はると共に、人は不完全となる、若し自然が何等危害の起らない理想の空間へ、人間を置いて呉れたなら、極限迄生きられるであらう。が人が此の空間へ生れ來て不完全となるにつれ、人類保存上、新進の強健なる子供の存在を要求する。老いて負傷した人と、入り替はるのである、そして、有限の世界に、最強壯の人を、出來るだけ澤山、同時に生存せしめると云ふのが、人類の爲めであり且つ自然界の法則となつてゐる。

(二) 遺傳

胎生學上より見る時は、外界の境遇が吾が祖先にある影響を與へ、それを今日吾人に遺傳したと見ゆるものもある。受胎して後、内外の胚葉となり一定の

縱、突起ができる、其力は内部にあるに相違ない。さして生まれた後も一定の太さになれば生長は止まる。此れは遺傳である。魚類兩棲類は月日と共にダン／＼太るが、やはり極限はある。蚊はいくら太つても象には及ばない、象はいくら太つても鯨には及ばない。なぜか？。蚊が象の樣になつたら、表面と體積との關係上、榮養不足となり、生存不適のものになる。誰でも生活に最適當の太さを取つてゐる。そして之れは祖先から遺傳的に極つたのである。遺傳となつたのであるから、今榮養をいくら大小した所で體の太さも自由勝手にする事はできない。榮養丈けで蚊の太さにも象の太さにもなるものならば、滋養品を加減せば人間も人工で勝手に、一寸坊主にでも大食鬼にでもなり得る筈である。吾々の祖先中生存不適な太さの者は陶汰され、中庸な者のみ生存競爭に堪えたからである、此れを遺傳して來たのである。外界の狀況によりて此の空間的制限あると共に、同じ理由の許に吾々は時間的制限を受けたのである。

結論

以上を總合すれば。壽命は分業の結果、自己意識なき生殖細胞のみ永性を保ち、進化して『我れと意識する肉體は、子供を產み且つ之を自活し得る迄教育した後、外界の輕微な危害に對する抵抗力が減じ、危害は凝結し結晶して遂に死を生ずるものと云ひ得るのである。で見れば、人間は婦人なれば四十五乃至五十年で子供を產み終はり、赤子が凡そ十五乃至二十年になる迄養育すれば卽はち六十乃至七十年となつたら、自然界の保護が止む。それから後はXで人々で違つてくる、此れが壽命である。六七十となつた後は、極限迄まだ中々年月があるが、抵抗力が餘程減つてくるから、僅かの危害と、死を結晶する事容易である。で身體の弱かつた貝原益軒の樣な人でも、細心の注意を拂つて、長生きした如く。吾々も、老後は實に些細な事にでも、氣をつけて行くならまだ／＼長く餘生を樂しむ事ができる筈である。

妊娠産褥の衞生（承前）

H。K。生

三、産褥の衞生

かくして十ヶ月の苦行は産と共に終りを告げ、漸く産褥に入るのでありますが、其産褥数週間は妊娠中にもまして、母體の健康を害する事件の多い時でありますから、其間の攝生は細心注意せねばならぬのであります、將來の不妊、種々の子宮病、其他生殖器の疾病、神經衰弱、ヒステリー等は多く此時期の不攝生より起りまして、爲めに婦人は幸福なるべき其半生を、ものうき病牀に暮さねばならず、ひいては又家庭の波瀾の基ともなり得るのでありますから謹しむべき事であります。

産後の子宮には胎盤の取り去られたあとに、大きな傷が出來て居ります、猶其より外迄の産道には、大きな小兒の通つた爲め、澤山の傷が出來て居りますから、産婦は云はゞ大怪我をした人と同じ様なものであります、一方には此等の傷面から絶えず多少の出血があり、一方には其の傷の所から多數の黴菌が侵入しようとして居ります、でありますから産褥の衞生は重に此の二大事項に注意せねばなりません。

先づ出血を防ぐには安靜と云ふ事が最も大切であります、産後始めの三四日間は可なり澤山の出血がありまして、惡露と申しまして、産後子宮より排出するものは、血液の少し薄くらいのものであります、それから後は漸々薄くなりまして、凡そ十日目位までは血の色を帶びて居るものであります、此の少しでも血の色のある惡露の下る間は、便通にも牀をはなれる事はなりません、此は出血の止まる様子を御考へになればすぐわかる事であります、始め破れた血管から盛んに出血いたしますが、血液は外へ出ると凝固するものでありまして、其の凝結した血液は次第に其血管の切り口をふさぎます、此時には凝結はまだ軟かでありまして、少しの運動にもすぐ破れてしまいます、併し数日の後には此は身體の組織と

變するのであります、かくなると運動した位では破れないものとなるのであります、之れ即ち運動が有害である一原因であります。

猶出血に對してばかりでなく、子宮の大さは通常赤兒の拳位のものでありますが、此時は小兒の頭位の大きさをもつて居ります、此は凡そ六週間位の後漸く元の大きさ位に小さくなるものでありますが、それには安靜と云ふ事が頗る大切なものであります。其外種々の點より見ても産褥に於ては、安靜と云ふ事が非常に必要な事でありまして、少なくも一週間は牀の中に横臥してくらさなければならぬのであります、昔は三七日間は危坐して居つたと云ふ事でありますが、此は却て不良の事であります。其間は便通はお側で取る樣にし、ねがへりもなるべくせぬ樣につとめるのが肝心であります、併し長い間いつも同じ位置を取る事は宜しくありません、時々變へる事は必要であります、そして三週間目位から漸く便所に行くとか、室内を少し位歩むのは差支ありませんが猶牀について居らねばなりません、戸外へ出るのは四週間の後でなければ、面白からぬ影響を惹き起す事があります、家計の事其他に手を出すのは早くも六週間の後の事にしたならば、大抵安全であります、世には産後五六日で既に働いて居る人もありますが、恐るべき事であります、けれど時としては十日乃至十二日目位から、時々上體を高めて、腹壁の運動をさせる事があります、此は極く靜かにするのでありまして、腹壁の殊に弛緩した人には必要であります。牀を離れて後は適度の運動が必要でありまして、毎日時間を定めて庭の中を散歩するなり、其他の運動をする事に心懸る事が肝心であります、此も度を過しては却て有害であります、適度の運動は子宮の縮小、健康の恢復に有效であります、と同時に、乳の分泌を多くし、且つ其性質を善良にする效があります。

身體の安靜が必要であると同時に、精神の靜穩も亦缺くべからざる要件でありまして、心を平らにもち

物事に感動せぬ様に注意せねばなりません、心穏かでない時には、自然子宮の縮小も遲くなり、健康も損はるゝわけであります、殊に精神の深い感動は妊娠の衛生中に申しましたと同じ様に、頗る有害であります、其爲め乳の分泌が少くなつたり、甚だしき時は全く止む事もありますから、子供に乳をやつて居らるゝ婦人は、最も注意を要する事であります、心配をする時に乳が少なくなるといふ様な事は、日常よく經驗せらるゝ事でございませう。

産後の精神狀態をよく觀察して見まするに、通常の場合には、其兒の産聲と共に非常に滿足しますが、其狀態は長く續きませんで、暫くしてから三日間は沈鬱に傾いて居ります、此は體の衰弱が重なる原因をなすので御座いませう。夫から四五日間位は刺戟性となりまして、少しの事にも泣き或は笑ひ、普通の場合には左程でもない事にも、容易に激しい感情が起ります、此時期が婦人の神經病になる危險の最も多い時でありまして、從つて最も注意せねばならぬ時であります。

身體及び精神の靜療と相並びて必要な事は、十分なる睡眠であります、睡眠の缺乏は健康の恢復を遲くし、衰弱をまし、更に種々の疾病の基となります、心配事、物思に耽る等の事は睡眠を害するものであります、睡眠時間は一日九時間内外で、其間を熟睡する事が必要であります。

また談話、讀書等も精神を靜穏に保つ爲めに有害であります、談話其物は無邪氣であつたにせよ、其よりそへと空想の犬が吠えまわりますから、宜しくない事であります、そして長時間の談話、讀書の後には身體の疲勞を感ずる事甚だしいものであります、家事に心を用ゐる事も、産褥三週間は絶對に宜しくありません。

第二の黴菌の侵入を防ぐ目的に對しては、局部を清潔に保つ事が大切であります、産褥の凡そ四週間位は、惡露が絶へず子宮の内から流れ出して居ますから、自ら其近邊は不潔になり易く、從つて黴菌は時

を得顔に蔓延いたします、此を不潔にならない様に注意する事は産褥四週間中の最も必要な事の一つであります。さて然らば局部を清潔に保つには如何したら宜いか、それにはいろ〳〵方法も御座いませうが、最も簡單なのは硼酸水(五十倍乃至百倍位)、或は石炭酸水(三十倍か五十倍位)で汚れて居る外陰部をよく洗ひ、消毒した布片で十分に拭き、其あとへ乾いた清潔な脱脂綿をあて、其上を油紙か何かにておさへておくのであります、此際用ゐる綿や布片は清潔なもので少くも始めの數日は消毒したものを用ゐなければなりません、綿はなるべく度々取りかへて汚れたものを長くあてゝおく事は大禁物であります、又其洗ふ處は外部丈でありまして、膣の中へは何物も入れぬ方が安全であります、此は誤解してはなりません。

入浴は動いてならない始の三週間は勿論禁物であります、腰湯も宜しくありません、なるべくは四週間後迄まつ方が後煩の患がありません。

産褥中の食物の撰擇は亦困難なものゝ一つであります、我大學では産褥の第一日目には、流動性のものばかりで、牛乳、ソツプ、鷄卵、おもゆ等を用ゐます、第二日目には粥、豆ソツプ、鷄卵位、第三日目或は四日目位から、脂肪の少ない鮮魚、刺身等を與へます、通常の食物に移るのは七日から十日目位の間でありますが、身體の運動がまた許されませんから、分量を多くしては消化機能を害します、又餘り少ない時には乳の分泌を惡しくいたします、此の中間を取るのが必要であります、若し又自分で其子を養はぬ人でありましたなら、乳の分泌の止む迄食物を制限する方が宜しいのであります、然し通常は自ら乳を與へる事でありまして、一方には出血の後を受けて居ります事故、食物は出來得る限り滋養に富んで居るものを用ゐねばなりません、即ち牛乳、軟かな鷄卵、脂肪の少ない鮮魚等を用ゐ、又獸肉は油味の少ない軟かなものなれば、三四日目位から少しづつ與へても差支ありません、其間に新鮮な野菜を

與へるのも必用であります、食物が悪い時には、健康の回復が遅くなるばかりでなく、乳の分量は少くなり、性質も悪くなりまして、子供の消化不良を起し、其の發育を妨げます。

産褥中食べてならないと云ふ物は別にありません、地方によりましては種々のものを禁じてありますが大なる障碍がない様でありますゝ只控へてほしきものは不消化なもの、鹽分の強いもの、漬物、辛いもの、油の多いもの等であります。

産褥中の寢室は産室と同じ様、殊に光線のよく入る所を擇ばねばなりません、近來富山縣の奇病と云つて、醫者の間に有名になつた骨軟化症といふ病は、大部分は産褥中の光線の缺乏と、榮養不十分とに基くものであるそうです、猶又室内或は同じ棟の中に傳染病の人又は其恢復期の人がありましたならば、そを隔離する事が必要であります。

産褥中は身體を暖かく保つて風邪など引いてはなりません、風は萬病のもとゝも申しますが、殊に産褥には種々の害を殘します。

腹帯は妊婦には胎兒の發育を妨ぐる恐れがありますが、産褥に於ては、弛緩した腹壁を緊め、大きくなつた子宮を小さくするに大に有效であります、併し又餘り強くしめては、子宮の下垂症を起す恐れがありますから、之も適當にせねばなりません。

それから便通をよくする事は、産褥の經過を良好にし短縮するに必要なる事であります、小便は多くの人は第一日目には一人で出來ぬものでありますが、此は一は床の中で慣れぬ爲もありますから、なるべく妊娠中から慣らして置くのが必要であります、それで如何しても出なかつたなら、産婆に頼み、十分の消毒した上で取つてもらはねばなりません、長く小便を堪へておることは子宮の縮小に大害があります、大便の通じも毎日ある様に注意して、滯りがあつたならば醫者或は産婆に其由を告げて、相當の所置をして貰はねばなりません。

房事は勿論産褥四週間は嚴禁であります、其後とも

健康の十分に回復する迄は忌避すべきものでありま す、早くより子宮を刺戟する時は子宮內膜炎を起して一生の痼疾を殘し、甚しきは壞血症となりて生命も奪ひ去ります。

以上は產婦自身に關した事のみでありますが、產婦は之と同時に其生兒に乳をやるべき大任務を持つて居ります、小供は生れてから後、數時間眠ります、それが覺めれば聲をあげて食物を請求するのであります、此時母の方では如何であるかと云ふに、母體の乳房は前に申しました通り、既に妊娠二ヶ月頃より膨れ出し、三四ヶ月頃よりは少し濁つた、粘り氣のある、鹽味の強い荒乳を分泌いたします、之は眞の乳とは性質が異つて居ります、產後一日乃至四日の間に次第に完全の乳と變ずるのでありまして、子供が初めて乳を請求する時には、母體はまだ眞の乳を分泌しないのであります、そして乳兒が此荒乳を飮む時は其鹽分の爲めに輕い下痢を起します、然し此下痢を起す事は乳兒の爲めに必要な事でありまして、胎生中胃腸中に嚥み込んだ物質を一掃するのであります、我國で昔から用ゐて居るマクリと申しますものは、俗に毒を下すと申しまして、實は一種の輕い下劑の用をなすものであります、マクリ（海仁草）と云ふ海草に甘草を混じて煎じたものであります、併し近頃は多く大黃を加へて居ります、そして普通は三日間之れのみを飮ませて、母の乳を飮ませる事をいたしません、併し之の三日間に母體より分泌するものは荒乳に多少の眞の乳が混じて居りますから、マクリよりは優つたものであります、ですから、母乳さへ飮ませる時はマクリの必要は御座いません、要するに生兒は生後十時間位を經たならば、其食物を請求するに從つて、母の乳を含ませるが、最も自然で又最も理想的なものであります、併し荒乳は赤兒の滿足する程出ない事が多いものでありますが、其時には二倍乃至三倍に稀薄にした牛乳或は稀薄な乳糖溶液（水一・〇〇に付乳糖六の割）を與へる時はマクリの用をなし同時に榮養となる效があり

ます。

そして乳を與ふる事は小供の爲めに宜しいのみでなく、乳を刺戟する事は子宮の收縮を促して、其の縮小に對し良好の影況を與へます、又乳房は既に産前より甚しく膨れて參りまして、産後には殊に急に膨脹し、痛みも甚だしいものでありますが、此は小兒に飮ませる事によりて大に輕快し、且つ眞の乳の分泌も早くなります、でありますから産褥中母が自分の乳で子供を養ふのは最も自然で最も衛生的であります。

生兒は腹充つれば眠り、飢ゆれば眠よりさめ啼泣して乳を請求いたします、之の睡眠は赤兒の發育に必要なものでありますから、なるべく多く寢る樣にしてやらねばなりません、又泣く事は小兒には唯一の運動でありますから、それなきだしたからと云つて直ちに乳房を含ませる事は宜しくありません、終日寢て居つて少しも動かぬ赤兒には泣く事の外に運動の方法がないのでありますから、少し位なくのは捨てゝ置く方が宜しいのであります。そして凡そ乳を與へる時間を定めておく事が肝要であります、即ち初めの間は日中三時間毎に、夜中は四時間毎に乳を與へるのは最も適當なそうであります。

乳房は常に清潔にして置かねばなりません、赤兒の胃腸は頗る弱いものでありまして外の人には無害である黴菌其他のものも、赤兒の腸に達しますれば下痢や、消化不良を起す事がありますから、乳を與へる前後には必ずよく清水或は酒精にて拭く事が肝心であります、殊に始めて乳房を含ませる時には、注意して清潔にせねばなりません。猶乳房の不潔は乳腺炎と申しまする痛みのはげしい疾病の原因となります。

生兒は母自ら乳をやるのが最も自然で又衛生的でありますが、母の病氣によりましては乳をやつてならないものがあります、最も普通のものを二つ三つあげて見ますれば、種々の熱病、例へば腸窒扶斯、天然痘、虎列剌、赤痢、猩紅熱等、精神病、脚氣、腎

黴病、結核性の諸病、殊に肺結核等であります、此等の病氣は直接其兒に傳染するものもありますし、又子供の消化健康を害しますから、禁じられてあります。

此等の場合又は他の原因で自ら乳を與へる事の出來ない時には、乳腺は盛んに腫れ、乳首よりは乳が滴り、及表面が強く緊結いたします爲めに、痛みもなか〳〵強くて堪え難き事もあります、此時には乳房に脱脂綿をあて、外より刺戟せぬ様に注意し、食物を減じ、一方には下劑を用ゐて、便通を增す等の手當が必要であります、此時に之れを搾つたり、又は吸ふて見たりする事は、乳腺を刺戟して、益々其分泌を高め、腫脹を強め、苦痛を增すものでありますから、決して試みてはなりません。

乳房には屢々小兒の齒の爲めに傷を生じます、又まだ齒の發育せぬ前にも、度々小供に含まれ又嚙まるる爲めに傷を生じ、痛みが激しくて困る事があります、之は又乳腺炎の原因となる事もありますから注意せねばなりません、痛みのはげしい時には硼酸軟膏か、デルマトール軟膏位を塗つて、上に綿をあてておく時は大に輕快いたします、然し、其間にも乳の分泌がありますから痛いからとて數日も飲ませぬ時は、乳腺が腫れる爲めに痛みが增加いたしますから、乳を絶對に止める事は出來ません、此時に用ゐる爲めに乳房の上に被せる帽子があります、多くは護謨製でありまして、丁度朝鮮人の帽子の様に出來て居ります、それを被せて、乳首だけを出してのませる時は膏藥をぬつたまゝで乳を與ふる事が出來ます、此の帽子は多分醫療器械屋には御座いませう。

此等の手當をしても猶乳房が腫れて、痛みが強かつたならば、それは乳腺炎が起つたのでありますから最早乳を飲ませてはなりません、そして食物殊に飲料を少くし、下劑を用ゐ、乳は濡れた布で繃帶をなし、或は五十倍乃至百倍の醋酸アルミ水で罨法を致します、大抵の場合には之で腫れも引き、痛みも取れますが、猶全治せぬ時は外科醫の手術を乞はねば

なりません。

乳を止める時期は一定して居りません、西洋でも諸大家の間に種々の說がありまして、七ヶ月から十五ヶ月の間にあります、我國では小笠原家諸禮の書には、生後二百二十日を食初として有りますが、此は儀式丈けでありまして、實際行はれて居りません、兎に角門齒發生の頃（六ヶ月乃至九ヶ月）より徐々と母乳の量を少なくし、牛乳、卵、ソップ、粥等を與へ、十六七ヶ月頃より魚肉を與へて全く母乳を止めるが宜しいのであります、乳を止める期に及んでも乳をやめぬ時は、小兒の健康を害し、小兒は羸弱に陷ります。

產褥中における小兒の手當、臍帶の手當等の事は略きます。

（終り）

冬の衣服

A。S。生

人間は一體どうして衣服を著るやうになつたのかと云ふと、これには先づ三つの主な原因を擧げて答へることが出來やうと思ふ。第一には、何人であるか又その勇ましさ、美しさを表はす標徵として衣服を著たのである。それで熱い國の人間は、別に衣服を纏ふ必要はないが、右の原因からして種々の色の布片や、美しい鳥の羽や、その他樣々の物で作つた飾を身に著けた。多くの學者の說では吾々の禮服と云ふものは、矢張その人の何者であるかを示す爲に纏ふたのである。第二の原因は禮儀であるが、最初の無邪氣な時代には、全く衣服を著なかつた。それから上品なものは全く身を纏ひ、下品なものは半ば體を包むと云ふやうになつた。吾々の住んで居る溫帶地方、殊に寒い所の住民は、體溫の調節、即ち溫度を加減する爲に衣服を撰んだので、冬向は特に此の要を感じたのである。

既に昔から人間は自然に寒さの不快な作用を防がうと勤めたので、吾々の祖先は、この目的からして獸

の皮、特にその毛皮を非常に好んだのである。今日に至てもこの關係は同樣で、吾々祖先の風習と餘り異はない、馭者、番人などのやうな寒い一定の處にぢつとして居るものは、非常な寒氣に對しては、どうしても毛皮で拵えたものが一番溫い衣服である。乃はち毛皮は、總ての物の中で最も溫かな衣服の材料である。これは動物の毛そのものが已に餘り溫を傳導しない物であるのに、他の織物よりも非常に澤山空氣を含んで居るからである。その意味は後に述ぶることゝして、尙はその外側にある革は空氣を透し難いので寒風の侵入を禦ぐことになる。空氣を透し難いと云ふても、毛皮の內側で下方から上方に空氣が流通するから衣服の換氣法は大丈夫であるが、只厚い毛皮を著れば條な身體の運動や、特別に巧妙な仕事をするには不適當である。

兎に角、衣服と云ふものは、體溫の餘計に放散するのを禦ぎ、周圍の氣溫が低ければ、特別に食物を澤山取らなければならぬと云ふ必要を免るゝ爲に、溫帶及び寒帶地方に於てはなか／＼大切な意味を持つて居ることで、これで以て北方の寒地にも住み馴れることが出來るのである。それは如何なる理由かと云ふに、衣服は、一割から四割位體溫の放散を減じ溫の傳導を妨げるからである。實際衣服を著て居ると、その表面では平均攝氏の二十一度位であるから溫の放散は、裸體よりも餘程少い譯である。尙ほこれは一枚／＼の衣服の層で溫の發散を防ぐことになる、それは一々衣服の層でその溫を計つて見れば直ぐ分かる。乃はち衣服を著て居ない時の皮膚の所では二十七度乃至三十二度、衣服を著て働いて居る時の皮膚では二十九度乃至三十一度、全く休息して居る時、殊に眠て居る時、或は外の溫度が二十四度以上の時は、三十四度乃至三十五度であるが、毛織の襯衣を著れば、その外側では二十八度五分、同じ襯衣と麻布の襯衣を著れば、その外側では二十四度八分、毛織の襯衣と麻布の襯衣と、チヨツキを著ればその外側では二十二度九分、毛織の襯衣、麻布の襯

衣、チョッキと上衣を著れば、その外側では十九度五分である。その體溫を多く放散させやうとするには、一枚宛衣服を脫げばよい、さうすれば一枚脫ぐ毎に外側の溫が高くなつて來る。斯樣な譯であるから、氣候に適して體溫を程好く保つことは、衣服を重ねる數に依て容易に出來る、つまり皮膚と衣服との間に適當な氣候を作るのである。

尙又體溫の放散を防ぐのは、衣服の溫を傳導しにくいと云ふことで、これは主として織物の空氣を含むことの多少と、その厚さに關係するのである。本より一定度の通氣性は必要であるが、然し餘り著しいと云ふと、溫を保つには不都合である。又衣服が濕めるとか濡れるとかすれば、これは非常に不利益なことで、乾いて、空氣を含んで居るものから見ると遙かに善く溫を傳導し、又その含んで居る水氣の蒸發するので冷氣を覺えて來る。

地質の薄い物は、その厚い物よりも、空氣を含むことが少ないと云ふのは明かな話で、從て冬は善く體溫を保つ所の厚い地質を撰む譯であるが、畢竟その組織の多く空氣を含むのを撰むことになるのである。その差は餘程著るしい。ルブネルと云ふ人が西洋人の衣服の厚さを測つた平均で見ると、極暑服は平均一・八ミリメートル、夏服は三・四、春秋は五・九、冬は一二・六、極寒には二六・六と云ふやうな大差がある、日本服の帷子から綿入羽織までの差は一層甚だしいものである。富裕な人は、夏冬は勿論のこと陽氣の具合で色々特別の衣服を用ゐるので、大凡十度から十二度位の溫を左右することが出來る。

冬は男子では、衣服の目方が大抵六乃至七キログラムで、女子の衣服はこれよりも少し重くなる。大抵吾々は此の季節には自分の體量の十分一位の重さの衣服を著て歩く譯であるが、四キロか五キロの犬はその冬著として只七十グラムの毛を被むつて居る。

先づ段々寒くなつて來ると、普通吾々は衣服の重著をする、西洋人では襯衣を幾枚も重ねる、それで和服は重くなり、洋服は窮屈になる、綿入の重著と云

ふ體では、これも仕事は出來るものでないが、メリヤスの襯衣を何枚も著て又チョッキ上著と體を締めるのは衛生上決して善いことでない。此邊は宜敷勞働者の服裝から割出して加減をするが善い。概して衛生家の云ふ所では、編物或は毛織物の洋服一枚で澤山である。尚ほ外部の原因に應じて、それ丈で足りぬと云ふ場合には、重からず、飾らず、粗い地質の布地を探むべきである。

育兒

實扶的里の話

醫學士　內海靜一

今回は時節柄小兒の能く罹り易い實扶的里の御話を致しましょう。此病氣は冬季に最も多ふ御座いまして、十月の末頃から三月頃に掛けて盛に小兒を襲ふのであります。殊に一番寒い十二月一月二月の三ケ月間は、誠に猖獗を極めるときであります。其故各家庭では、小兒の冬の病氣の內で此病氣に對して最も注意を拂はれなければならないのであります。

此の病氣は一種の恐るべき傳染病でありまして、リヨフレル菌と云ふ細長い黴菌の爲めに起るのであると云ふことは、今から二十五年許り前に發見せられました。本菌は健康の人の口腔內にも居りまするが別に何んともない、只人體の或る特別な弱味の場所に附け込むで、侵入するのであります。それは人間許りではない外の獸類例へば、馬でも、犬でも、猫でも又其外に大抵の鳥類でも人間と同樣に傳染するのであります。次に

如何なる年齡に於て罹り易いか、又
如何なる人間が犯され易いかと云ふ
に

人間では年齡は、一年未滿のものには極めて稀であつて、殆んどないと云ふて宜しいが、二年から七年

位の小兒に最も多ふ御座います。それから以上になると、段々に耗つて來て、十歲頃には、又稀であります。成人となると又甚だ稀であります。それですから實扶的里は、一種の小兒の專門病と云ふて宜しいのであります。そして男兒でも女兒でも同樣でありまして、孰れに偏して多いと云ふことはありませぬ。此の病氣は下層の社會に多ふ御座います。畢竟多人數雜居すること、榮養の不完全であること、空氣の流通の不足なること、太陽の光線のあたらないこと等、是等のことが人間の黴菌に對する抵抗力を鈍らすのであります。此の關係は、恰度虎刺拉病と同樣でありまして、平素胃が健全であつて胃液の分泌の盛な人は、虎刺拉には罹りませぬ。胃液と云ふ虎刺拉菌の强敵が不足して居る其留守中に、自分の勢力を播らせるのであります。それと同樣に人間の體力が不足であり、衞生が不行屆であると、健康なときには防禦ぎ止められて居る實扶的里菌も、直ちに得たり賢こしで人體内に喰ひ破つて入るのであります。其れですから衞生と云ふ事は、平常何でもないと思はれるかも知れませぬが、事實に於て這ふ云ふ事が起るかと思へば、決して忽にしてならないものであります。卽ち衞生の不行屆きな下等社會に多いと云ふのも其の理由であります。

實扶的里は如何なる部分の病氣であるか

實扶的里と云ふても、只に咽喉許りではありませぬ。併し本病の最も侵し易い所は、咽喉と鼻腔とであります。そこに何か加答兒があるとか、又は炎症があると尙更黴菌の入り易い門戸となるのであります。殊に扁桃腺が第一に侵され易ふ御座います。其の外にも皮膚の外表にある創口からも入り得るし、まだ其外に入り口は澤山にあります。

其内でも屢ゝある所を申し上げますれば、女兒の生殖器、舌の尖端又は其の下側から小兒では入ることが時にあります、又音聲を發する咽頭を第一に犯すことは多ふ御座います。又眼の結膜を犯すこともあ

る。這ふ云ふ風に色々の場所を犯すのでありますけれども、最も多い所は喉頭であります殊に扁桃腺であります。それですから、實扶的里と云はゞ直に喉頭の實扶的里と一般に即斷する樣になつて居るのであります。

傳染の媒介者は何であるか

と云へば玩具であります。殊に幼ない小兒では、兎角物を把ると舐める習慣がありまするから、誠に危險千萬であります。若し患兒の玩具を消毒もしないで、其儘他の小兒が弄つて而かも直接に口中に入れて舐めるとすれば危險至極と云はねばなりませぬ。一度舐められた玩具は既に無數の實扶的里菌が附著して居るものとして差支へないのであります。そして一旦附著した本菌は中々死滅することはないので乾燥しても抵抗力は甚だ強大でありまして、該菌の義膜内に在るものは乾燥して、九週間乃至十四週間經つても尙ほ生活して居るのでありまして、患兒の玩具には六ケ月間も生存して居た例がある位であります。其れですから患者の玩具は病氣を診斷さるゝや否や直に一萬倍の昇汞水で消毒するか、又は熱氣消毒を施さないと危險物であります。本菌は溫度に對しては抵抗力の甚だ薄弱いものでありまして、五十八度の溫度中で十分間加溫すれば死滅して仕舞ひます。其外に衣類とか、器具類から媒介されることも多う御座いますから汚染い布帛とか、器具殊に患兒の食器等には長時日間本菌の生活して居た例は乏しくありませぬ。又は遊戲でもし得る樣な輕いときには、病者から直接に傳染することもあります。隨分不注意な家庭では、容態が莫大した事がないからとて、戶外で朋友と遊ばせたり又は、幼稚園へ通はす場合がないでもありませぬ。從て幼稚園は一種の傳染病媒介所の樣な姿になる場合もあります。

實扶的里菌が小兒の喉頭内に宿るときは、其後一週間後に於て大抵は發病致しまして、其れから固有の症狀を呈するのであります。其の間は菌が體内に入つて、身體内の抵抗力と頻りに戰爭して居るので

あります。そして一週間の後には愈〻微菌の方が凱歌を奏するのであります。

發病後の容態は如何かと云ふと

初めは身體が倦怠い、そして元氣がなくなる。周圍の人からも所謂意氣銷沈の態に見える。幼い小兒では機嫌が惡くて、兎角泣き易い又怒りつぽくて無暗と煩請れる、そして何となく其の狀態は平常とは違ふ。又稍ゝ生長した小兒では初め不愉快相で朋友と遊ぶことを厭ふ、又物に倚り掛かり勝ちで、頭痛を訴へる、其外食慾が減退つて、體溫も可成高くなつて三十八度乃至三十九度にも昇つて、患兒の皮膚に觸れると熱い、從つて口も渴いてくる。それ等の事があつてから半日も一日もすると愈々

本病獨特の症候が現れて參ります

食物を嚥下すときに、咽喉が微かに痛ひと云ふことを訴へる。幼兒ならば容貌で以て大抵分かる。茶、珈琲の様な流動物は大して痛まないが、固形物を嚥下すときには可成り堪難らい。又啻に唾を飲み込む丈けでも苦しいものであります。此時に方て一度咽喉を覗るときは、咽喉全體が赤色に化して、扁桃腺は左右共に脹れ上つて、其の表面には黄色又は灰白色の膜が冠さつて居ります。其の膜は治療を怠つて居るときは、咽喉全體に廣がり又は口脣の方迄も廣がることが極稀にはあります。病氣の第一日に於て顎下腺が脹れて指で觸れると大きく持上つて居ります、又壓すと甚く痛みます。併し以上申し上げた様な容態があるからと云ふて、直ちに實扶的里であると即斷することは出來ないのであります。安魏那と云ふ病氣は扁桃腺の炎症でありまするが之れと恰度能く似て居るのであります、其れですから時機を逃れない様に、敏捷く醫師に診察を乞ふて手當を請はないと、病勢は丁々と進むで來て取り返しの附かない破目に陷ることがあります。咳嗽が出て、咽喉が痛むで熱もあるから普通の風邪と思はれる様な場合に遭遇することが能くあります。それ故家庭の注意の不行屆きなる爲めに恐ろしい結果を生ずるので

あります。又時としては外觀上病狀は甚だ輕くて、嚥下の障碍も甚だ輕微で、又甚だしきは全然嚥下障碍のない樣な場合もあります。又僅に些少の頭痛と倦怠るいと云ふことのみ訴へる場合もあります。恁う云ふ場合が傳染に對して最も恐るべきものでありまして、病菌を方々へ持ち運び勝ちであります。又喉頭と同時に鼻の粘膜の加答兒に罹ることが多う御座いまして、鼻汁が漏出るとか、又鼻で呼吸することが困難になつて參ります。

此の病氣には輕重色々ありまして、初めは輕くても後になると劇烈くなつて來るものもあり。又之れに反して初めは重くても案外良い結果を見るものもあります。其れ故豫め其の結果を知察することは出來ないのであります。次には輕重を分けて概況を御話し致します。

輕症のものは

差したる熱もないか、又は三十八度内外に升ることゝありまして、平素と換はらないで奔走遊戲するものもある位であります。食慾も殆んど平素と換りませぬ。此の樣な場合では、醫療を請はないときは、僅風邪位で濟ますのであります。此の場合には特效劑たる血清注射を行はなくとも十日間位で治ります。

尙は稍〻重症のものでは

單に喉頭ばかりではなくて大抵は鼻も同時に侵されまして、濃い黄色の鼻汁が出て、時としては血液が交りて、又は衂血の出るときもあります。鼾聲も高くなり、嚥下すときには痛みを感じ、患兒は不活潑で遊戲を好まなくなり、食慾も段々と減少し、熱も可成り高くなつて參ります。

最も重症のものは

稀でありますが、體溫は四十度位にも昇り、精神も恍惚として、話しかけても返事が澁り、又は全然睡眠の狀態になつて、又多くは鼻も同時に侵されて膿汁が出るとか、鼻孔の所が爛れて赤くなつて、又は其所が痂皮で以て蔽はれて居ることもあります。口からは腐敗した樣な惡臭を放ち、頸の頸下腺は甚

く腫れて痛み、周圍から見ても餘程重そうに見えます。

其外比較的豫後の良くないものは

鼻の實扶的里

であります。大抵の場合には、先づ喉頭が侵されて次に鼻に廣がるのでありますけれども、時としては鼻が先づ侵されて後に咽頭に來るか、又は鼻のみの事があります。そのときには普通の鼻加答兒の様に鼻汁も出るし、衄血の出ることもあり又嚔も出るし鼻汁は濃い膿汁の如で血液の混じつて居ることがあります。又熱もありますから此場合も一見風邪と見做され易いのであります。それ故姻循姑息して居る内に、血清療法を行ふ時日も遲れて病勢も進行致します、鼻の實扶的里の重くなり易いのは手遲れするからであります。又咽喉から鼻に廣がつた場合にも重症のことが多ふ御座います。それですから小兒の鼻汁が濃い膿汁の様で時としては其内に白い豆腐の糟の様な小片が混じつて、又時々血液が混じつて、鼻孔の邊が糜爛れて、痂皮が出來て、熱が有るときには、必ず速かに醫療を請はなければなりません。又單に衄血が出たときでも注意せねばなりません。

實扶的里の經過中又は病後に起る病氣は

色々あります、其内で腎臓炎は大抵の場合に起りますけれども、大抵は病氣の全快すると同時に治るものであります。之れも治りきらぬときは慢性となつて、一生涯苦しむ様な危險があります。其外に心臓の麻痺が突然起つて絶命することがあります。之れは病後二三週間の頃に來り易いのであります。其外肺炎の起ることもあります。又二三週間の後に、實扶的里性麻痺と申しまして、身體の諸部の麻痺の起ることがあります。軟口蓋の麻痺が最も多ふ御座いまして、音聲が鼻にかかり、又口から喰つた流動物は鼻孔から直ちに流れ出ることが特異の徴候であります。そして睡眠ると鼾聲が高くて、一度咽喉を見ますると、軟口蓋は緊張がなくなつて居ります。其

外に足が麻痺して歩行が困難になるとか、手が麻痺して物が把れなくなることがあります。又動眼神經が犯されて、眼の瞳孔が内方に寄るとか又外方に離れることもあるし、又聲門が麻痺して全然聲の出なくなることもあります。又呼吸の機能が不可能になつて危險に迫ることもあります。此等の麻痺は漸々治るものでありますから、生命に危險のある部分の外は餘り心配することはありませぬ。次に

最も危險なるものは實扶的里性格魯布であります

之は實扶的里が喉頭を犯して起る場合であります。俗に馬脾風と申しまして、昔から恐れられたものであります。格魯布は喉頭から段々に下方に廣がることが多くありますけれども、喉頭のみを犯すことがあります。

咽喉の奥が犯されるのでありますから、一見して咽喉には何も變りのないこともあります。主に聲の出る邊が犯されるのであります。病狀の起るのは大抵は突然でありまして、昨日迄は平氣で遊んで居たとか又たは學校へも通ふて居たとか云ふ場合が多い樣であります。然かるに唐突に粗烈い犬の吠える樣な咳嗽を發しまするが之れは本病に特異な點であります。又咽喉がヒユー〳〵申しまして如何にも何かで壓迫せられて狹くなつて居る樣に思はれます。その聲は一室位離れて聞き得る位高う御座いまして、音聲は嘶嗄れる、從て啼ても顏貌で想像し得るのみで聲は更に出ませぬ。小兒は苦みの結果悶躁いて、頭を左右に振り廻はして、或は右に或は左に轉がり一寸も沈靜た所が見えぬ。胸部は波の打つ樣に上下に運動して其の恐怖煩悶の狀態は、傍で見るに忍びない、如何にも窒息の時機が切迫して居る樣に見えます。此の時に方つて時として、義膜の一片を吐出すこともあつて症狀も輕快して一時は家人をして愁眉を開かしむることがありまするけれども、是れ全く只一時の芝居を演じたのであつて決して永久の良好なる徴候ではないのであります。此の危險を救ふ

には氣管切開術を行ふて、人工的に氣管に孔を開けて、其處から呼吸を營ましむるの外はないのであります。到底血淸の注射とか飲み藥などで悠々と治癒を期待する樣な場合ではないのです。躊躇して居る內に危險は刻一刻と差迫つて參りまして此の爲めに仆れることは多う御座います。氣管切開術を行へば其後の經過は宜しいものでありまして、呼吸は平靜になり、容貌も全然化つて來て、創口も段々と癒つて、其內には咽喉の實扶的里も治つて來ます。

實扶的里は早く治療すれば大抵治るのであります、北里、ベーリング兩氏が該病の血淸治療を發見して以來病の早期に注射するときは、大抵は數日にて義膜は脫落れて段々と治ります。又豫防注射も效力があります。其故一の家庭に一人の患兒が出來るときは、他の小兒に豫防的に注射するのは良いことであります。

此の血淸が發見せられた後は、此の病の爲めに死亡するものは大變減少つて參りました。併し診斷の手遲れの爲めに不幸なる結果を見ることがありますから、早期に治療を請はれる樣に望みます。

病氣の原因に注意せよ

H。S。生

衞生の本旨は、健康な身體を保持し、且增進して、人類に與へられた幸福を完ふするのでありますから疾病を未前に防ぎ、一朝病に逢つては、早く治癒するやうに努めるのは、當然のことであります。併し、この當然の務めを果すにも、相當の智識を要するので、若し、何故に病氣が起り、如何にして、これを處置するかと云ふことを知れざれば、遂には其生命をも果さねばならぬことゝなります。殊に小兒のやうなまだ思慮の淺いものに對しては、父兄とか、教師とかが、注意をして、成るべく、大事に至らぬ前に、身神の異常を發見して、これに適當の處置を加へるやうにせねばなりません。

小兒の病氣の多くは種々な原因が集まつて、發生するものであることを忘れてはなりませぬ。又疾病の種類によつては、親から遺傳するものもあるし、或は素因と申して、弱い性質を享ける場合もある。

其他敎育や、社會的の事情や、榮養の事や、性、年齡等は、疾病と關係する處が多いのであるから、父兄や敎師は、相當の智識を修めて常に注意を與へねばなりませぬ。既にかかる智識を有する人は、小兒の疾病を早く發見することが出來ます。從つて早く適當の處置を加へることが出來る。

父と母とが、何れも同一の疾病を招く樣な生活をして居つて、その小兒に不具や、疾病が起つたり、又親の習慣や、その他奇癖のようなものを見慣つてそして、これ等の事柄が小兒にチャンと符合する場合の如きは、これを假りの遺傳と申してよいと思ふ。

病氣とか、不具とか、虚弱とか申すものは、多く先天性のもので、これに加ふるに、小兒のためには、頗る不利益な感作をうけて、そして、一層小兒をして、病禍に惱ましめるようになるのであります。

それでありますから、多くの病氣は、母親が、已に分娩の以前にうけた惡い感作の結果に基くものであります。

しかし小兒がどう云ふ風にして、兩親の狀態を遺傳せらるるかについては、全く暗黑で、何等の說明を加へることは出來ぬ、が、恐らくは、病氣そのものを傳へずして、多くは、病氣に罹り易い素因を遺傳するのであらうと云ふことであります。

併しながら素因を持つて居る人でも、割合に健康にして、一生その素因を現さずに濟む人も無いではない、これに反對に、折角立派な身を以て、この世に生れて來た人でも、何かの事情で、弱い素因のある人にまけることも、稀では無い。要する所、病的素因を發起せしめたり、又この素因を未前に防ぐのも家庭と學校の範圍に屬する事柄である。

然らば、一體、弱い素因を遺傳すると云ふ、不具や病氣と云ふものは、どんなものであるかと申します

ると、兎脣、贅指、贅趾、小頭、大頭、結核、癌、痛風、痔疾、甲狀腺腫、英吉利病、精神病、アルコホル中毒等でありますが、殊にアルコホル中毒は、まことに惡業の酬ひで、罪なき子孫は、この不行狀なる親のために、見るも憐れなる狀態を示して、この世に生れねばならぬのであります。

親の罪惡が、罪とがも無い、子女の身にまで傳るとは、何んと戰慄する程に恐ろしいことではありませんか、併し我等は又、幸にして、善良の性をも傳へ得るの幸福を持つことが出來る、さらば何人も、後世に遺る我れ—子女—に對して、勉めて善良なる肉と靈とを貽すことは、これ實に最大の務めにして、一日も忘れてはならぬことであります。

習慣は、第二の天性となると申しますが、この習慣は、また或疾病を惹き起すことがあります。

先生や、父兄が、小兒の榮養の惡くなること、元氣のない顏つきなどを心づいた場合には、直ちに家庭の關係や、その他の事情が、この狀態の原因でないかと云ふことについて、研究をせねばなりませぬ。

例へば食物、起臥、衣服等の關係より、病氣の際に非常に惡い容貌を呈するのは、決して稀ではありませぬ。尤もこれは、單に病氣の時ばかりでは無く身體に障碍の無いものでも、この關係は別に選ぶ處はありませぬ、只疾病の時は強く感ずるに過ぎないのであります。これ等の事柄が、疾病の成立に關係があるし、又生活中に特別の感作を與へるものである。疾病に罹れる者の數と、死亡するものの數が、增加するのは、この爲であると申す人もあります。それでありますから、貧窮な生活をして居る人々は富裕なものよりは、疾病に罹る數も、また死亡數も多數なることは、申すまでもありませぬ。

狹い所は多數の人が住むと云ふことは、危險なことで、殊に新らしい空氣の缺亡、有害成分を含有した空氣、煙、惡臭、瘴氣、光線や、濕度の缺亡、異常の濕氣及び乾燥等は、一層危險である。

右に述べた樣な關係でありますから、富裕の人の子

は、斯かる惡感作をうけることは殆んどないのである、從て、危險も少いと云はねばならぬ。

着物は、右に述べた樣な害物のために、汚染し、或は壓を受け過ぎたり、小に失し、又は過濕、又皮膚を傷けたりするために、種々の害を起すことがあります。

その他また、臥牀の不適當なるものは、身體の健康には、非常の影響があります。

榮養が小兒の疾病に關係のあることは、申すまでもありませぬが、殊にその不適當の量を用ひたり、單に榮養物を而かもまづくして與へることなどはよくない、即ち、蛋白質や、脂肪の不足とか或は、鹽とか水を不適當に含ませる樣なことは、宜しく無い。只榮養價を十分にし、其調理法や、消化の難易を併せて考へるのが必要である。

仕事は、病氣の發生に大なる關係を有して居ります、もし精力を非常に殺ぐものとか、或は、仕事に用ゆる物質が、身體に惡影響を及ぼす樣なものは、直接の害となることは、勿論であります。

鉛を取扱ふもの、又は色素を用ふる人は、疝痛、麻痹、關節痛を惹き起し易い、水銀を觸る人は、流涎口腔內の潰れ、腹痛性の腸炎症などを起すことがある。砒素は、癆瘵を發し、燐は、皮膚を黃色に變せしめ、又外氣中で、劇しい勞働をする人は、感冒、胸膜炎、腹膜炎、肺炎、心臟炎等を起すことがあります。又過度の濕度中で、仕事をするために、眼炎皮膚炎、ロイマチス、痛風、腦炎、精神病に罹ることがある。

過度の光は、眼、腦等に、害を惹き起すことが少くはない、その反對にまた、光の過少は、貧血、精神性譫妄等の原因となることがある。

偏側的の仕事又は過劇の業務は、姿勢をくづすものである。

永く起立することは、心臟病や、靜脈怒張の原因となるし、爾ふかと云つて、永く坐つて居ると、痔瘻の發生を扶けることになる。

絶えず息を出して仕事をするもの例へば喇叭手の如きは、肺氣腫になり易い。

小兒が家庭の用務のために害を受けて居る場合は、先生が一見すると直ぐ解る、即はち精神能力が乏しい、記憶力が弱い、不確實、催眠等の徴候があるからです。

病氣が治して他の病氣を貽す樣なことは屢々見る所で、例へば猩紅熱の後に耳の化膿、聾、腎臓炎、恐水病、ロイマチス等を貽す樣なことであります。

麻疹は、その治後屢々肺炎を貽し、關節ロイマチスは、心臓病を發生し、天然痘は、多く眼目を奪ひ取る、貧血は屢々結核を喚起し、百日咳は、腦炎、結核を喚び、肺炎、肋膜炎は、漸次結核の基礎を造るのである。

腦の病氣は、痙攣や、麻痺の原因となり、既に窒扶斯の經過したるものは、永い間、消化の困難を告げることがある。

性の異るによりても其疾病に多少の差違あるは、勿論のことであるが、ある定まつた病氣は、男兒よりも女兒の方が罹り易い、又これに全く反對の關係を有する疾病もある。

一體小兒の生れ方は、女より男の方が多く生れるのであるが、後には、その數が平均する。これは、生れて後、女兒よりも、男兒の方が多く死ぬるからなのである。

男兒は、女兒よりも多く肺炎に侵される、女兒は、思春期になると月經性萎黄病に罹るものが多い、ヒステリーは、男子よりも、女子に現はれるのが多い、これと同じく舞蹈病も、矢張女子の方に多く發するのである。

學校兒童のかかり易き疾病は、格魯布、ヂフテリー炎、肺炎、百日咳、結核、腦炎、骨病、結核性關節病、英吉利病、盲腸炎、急性皮膚病、麻疹、猩紅熱天然痘、神經系統の方では、癲癇、ヒステリー、舞蹈病等である。

身體發育の時期は、小兒、殊に女子にとつては極め

て大切の時で、この時分に種々の危險が現はれて參ります。此時代には、好んで急性の病氣が、現はれます。

卽ち、出血、頭や胸部の鬱血、鼻出血、喘息等であります。

病氣と年齡もまた關係があります、卽ち一定の年齡では、一定の疾病に罹り易く、又一定の年齡に現はれるものは、疾病の性質が略定まつて居るし、尙ほ疾病の經過には、年齡が關係をして居ることも事實であります。

家庭衛生

家庭衞生漫錄（其三）

醫學士　S。U。生

嬰兒の保育

嬰兒の產聲高く打揚げたるときは、中途にして枯れぬ樣に凋まぬ樣に、諸事に就て注意を拂はねばなりませぬ。恰度草木を育てるのと同樣で初めが大切であります、初めの虛弱のときに霜露にあたらぬ樣雨風に惱まされぬ樣に、氣を付けて適當なる肥料を供給へてやらなければ、將來に於て喬木となり、蝶蛾をも引き付ける樣な香芬をはなつ草花とはなり得ないのと差ひがありませぬ。

嬰兒が生れるや臍帶を切らなければならぬ、之れは消毒法を完全に行ふて、麻の絲を二所に結び付けて切るのであります。それから次に

產湯に浴せしめる

產湯の溫度は、普通手を浸して見て氣持ちの佳い位にしてやります。そして身體に附著いて居る血液なり、脂肪を軟かな布片で洗ひ流してやります。脂肪が落ちないからとて決して非道く磨いてはなりませぬ、嬰兒の柔かな皮膚は直ちに皮下の溢血を起し易う御座います。此のときに海綿を用ゐると能く落ち

ます。又糠で洗ふのも宜しくあります。啻に身體の外表のみならず、口腔内にも清潔な布片を入れて能く隅から隅迄挿入れて拭ひ去らねばなりませぬ、這んな事は産婆の熟練した者又は醫師に任せるのではありますけれども、家庭の方も一通り心得て居られる必要があると思ひますから、少々醫術の事に渉つて餘計な事の樣にもありまするけれども簡單に御話しておきましよう。嬰兒は産道の途中に於て恐るべき淋病菌などを眼瞼に塗り込むで、惡性の眼病に罹つて遂には失明することもありまするから、産湯は眼に入らぬ樣に用心せねばなりませぬ。其れには第一の豫防法としてクレーデーと云ふ人の發見した方法に從ふて、五十倍の硝酸銀水を眼中に一二滴丈け點眼してやります。此の豫防法を行ふと不慮の過は大抵無いのであります。産湯が終らば、西洋手拭で能く全身の濕潤を拭ひ取つてやつて、臍帶は清潔なガーゼで卷いて、温暖かい着物を著させて平靜に牀上に眠らしてやりこます。大抵はすや/\と直ちに眠るのであります。そして

嬰兒に著させる衣服は

成る可く弛緩であつて、身體の諸部殊に胸部腹部を緊り付けぬ樣に自由の呼吸の出來るやうにして、手足の運動の自由を妨げては不可ませぬ。衣服は木綿又はフランネルが最も適當であつて度々洗濯して清潔のものを著させる樣にせねばなりませぬ。餘り時候外れの厚著は避ける樣にしないと皮膚を弱らし又甚しく發汗して、虚弱い嬰兒の皮膚に濕疹を生せしむる恐があります。又其の外に全身の運動を妨げて身體の發育を害ふのであります。襁褓は能く乾燥いた暖かいものを屢々取り換へてやらねばなりませぬ。

母と子の添寢は良くない習慣である

此の習慣は吾國古來の弊習であつて母子共に害があります。何故能くないかと云ふと第一夜間熟睡中には、母親は思はず自分の腕なり乳房を嬰兒の鼻孔又は口に壓し付けて窒息せしむると云ふ危險がある。

此の事は餘り稀有ではない、時々新聞の三面記事上に於て無殘なる嬰兒の最後として、書き立てられてあります。第二に哺乳の時間を不規則にさせる基となります。一體哺乳の時間は二時間とか三時間とか一定の間を置くべきにも拘らず、兎角嬰兒啼泣時の唯一の武器と誤解せられて、屢々與へる樣になり勝ちであります。況んや添寢をするときは、啼くと直に給りたくなるのが人情であります。第三に別の蓐に臥さすと寒さに堪えないであらうと思はれるけれども之は決して憂ふるに足らないことであります。小兒には小兒固有の一定の體溫があつて冷へる樣なことは決してないのであります。第四に嬰兒の時に添寢の習慣を付けるときには、生長後も尙ほ添寢の習慣は中々去り難ふ御座ります、結局、子を思ふ親の心のまどひの下に、不知々々に小兒の獨立的精神を涵養ふに妨げとなります。事は小なれども之れは一種の精神修養の端緒ともなるのであります。以上何れの點から考へても決して良くないのでありま

只子を思ふ親の人情から起る事でありますけれど、要するに子の爲めに良くないのでありますから斷然と各家庭に於て止められる樣に希望致します。近來注意深い家庭では別の蓐に臥させる樣になつて來ましたのは喜ぶべき事と思ひます。

嬰兒の食物は怎うするか

吾國では古昔から、子が生れると直ちに五香又は鷓鴣菜等を煎じて飲ませる習慣がありますけれども、之れは可憐なる嬰兒の胃腸を害せしむるものでありまして、這んな不自然の事は決して爲てはなりませぬ。自然の賦與した母乳と云ふものは、實に都合よく配合されたものでありまして、輕視すべきものではないのです。尤も生れて大抵一日は何にも給りませぬ。其れから最初に母乳を給つて差支へのないものであります。差支へのないのみならず最初分泌する母乳は却て嬰兒の胎便を排出するに適當なる成分を含有して居りますから、甚だ有效のものであります。

其外諸種の注意を總括めて申しまするこど

身體諸部を檢査して不具畸形の處の有無を確めねばならぬ、兎脣などは時々あります。之れは早く外科的に手術を行ふて縫合せぬと、第一哺乳に困難であり、又外氣が直接に口腔內に入つて、鼻孔を通らないから、能く咽喉の加答兒や氣管枝炎などに罹ります。又指の數が多いとか、頭蓋が普通よりも大きいとか、首に普通以外の呼吸孔があるとか、又は難產であつた爲めに、首の片側に瘤が出來るとか、又其れが爲めに首が片側に曲がるとか、其手足等を能く檢べて不具の場所を搜さなければなりません。入浴は每日一回宛行はせる規定にした方が宜しい、又溫度は三十七度乃至八度で丁度適當して居ります。殊更に腋窩とか兩股の間の所は清潔にする樣にせぬと、能く糜爛を起すものです。其のときには撒布藥として、亞鉛華澱粉を撒き散らして、乾燥させます。此の藥は亞鉛華と澱粉とを等分に混合して作るのであります。そして入浴の際に清淨にして後手拭で能く拭ひ去つてやる內に、大抵は治癒ります。又沐浴の外に、朝夕清淨な布帛を清水に濕たして、口腔を拭ふてやる事を致すと口內に鵞口瘡等を生ずることはなく、腐敗物を取り去つて、加答兒を起すことはないと申しまするけれども、是れは却て行はない方が宜しいと思ひます。口腔內を布片で拭ふときは、其薄弱なる小兒の粘膜は能く外傷を起し易いから、其の爲めに却て外から種々の有害なる細菌が入り易う御座います。其故止した方が宜敷いと思ひます。併し乳房は哺乳の度每に清潔に拭ふ必要があります。又此頃から先きになると、氣候も寒冷になりますから、外氣に直接に皮膚其外の器官が當らない樣に頭に輕き頭巾を冠らせて同時に耳朶も蔽ふてやつた方が宜敷くあります。況んや頭髮を古來の習慣通りに七夜になると產髮を剃ると云ふことは佳くありませぬ。以上申し上げました事柄は主として生れて數日間の注意のみであります。嬰兒千歲の榮を祈らんに

は、過を改むるに憚ることなく、害あり毒ありと知らば良法を取られる樣に希望するのであります。

此時の心得（承前）

Ａ、Ｓ、生

目に塵の入つた時

眼球の構造は非常に優美に出來て居て、しかも眠る時又は死だ時の外は常にこれを開いて活潑に働かすものであるから、隨分色々な危險がある、けれどもこれに對する防禦法が自然に備はつて居るので餘程の害を免れる。それは第一眼瞼が上下に在つて、眼球の飛出て居る部分を包んで居り、目を閉づる時には、其上下の緣が少しの隙もない程よく合はさる、而して、上下の睫毛がその上から被つて防禦を固ため、久しく閉ぢて居れば、上下の眼瞼の緣の所より眼脂が出來て閉ぢて居る上にも尚ほ目塗をする。それで何ぞ外から害になることが來やうとするときには、電光の如く目を閉ぢる、その速なることから一瞬間と云ふ言葉さへある程であるが、この時には、瞳孔も小くなつて、忽ち上の方に逃げて行く。斯樣な譯で外から飛込まうとする塵は先づ睫毛で以て跳ねつけられ、上下の眼瞼に閉め出され、容易には飛込めない。それでも極細かい塵や小さな蟲などの入ることが屢々ある、特に風の吹く時に多いが、どんな小さな物でも、目の中に入ると、ゴロ〱して、涙が出る。この涙は常に少しづゝ出て、眼球を濕ほして、眼瞼で以て拭掃除をして居るのであるが、何か物が入つてゴロ〱すると直ぐ澤山涙が湧いて、その物を目の外へ流し出してしまふ。尚ほ涙は、外から入つた物の毒を薄くし、又毒を消す力もある。斯樣な具合で普通の塵は容易に洗ひ出されてしまふが、眼球と眼瞼との間の襞即ち塵の入る所は、隨分深いから、上の方に入つて行くと、なか〱取れないことがある。普通塵が入ると、直ぐ手の甲で以て擦る、而して眼を眞赤にして、往々眼の大切な部分

に創をつけるやうなこともある、殊に固い物の入つた時に危險である。それでこの塵が眼に入つた時の心得をお話し致しませう。

一體塵の入つた時に、普通の人は直ぐ擦する、これは殆ど自然に手が働くのであるが、その擦り方が間違つて居る。眼は元來閉づる時には、目尻の方から閉ぢて來て、目頭に終るやうに働く、それで塵は何時でも目頭の所から外に出されるのである。然るに普通の人の擦り方を見ると、これと反對に、目頭から目尻の方へ擦するやうである、これは反つて塵が自然に出るのを妨げて逆に送り返すのである。若し塵の外に出るのを助けやうとするのならば、極靜に眼瞼の上から指で以て、目尻より目頭の方へと撫でてやらなければならぬ筈である。又前にも一寸述べた通り、何ぞ目に刺戟が起ると、眼球は忽ち上の方へ向くものであるから、塵は何時でも眼球と眼瞼の間の奥の方へ持て行かれる、特に狼狽して目を動かせば、必ず上の方へ送り込むやうになる、大概の人は眼球を上の方へ向けて塵を出さうと勉めるが、これも反對で、宜しく下の方を見るやうにしなければならぬ。右の理窟で、下の方に塵が入つた場合には一つは、上よりも嚢が淺からでもあるが、眼球が上に行くので塵が出易すい譯である。それで目に塵の入つた時には先づ靜に眼を閉ぢて目尻から目頭の方へ撫でる、而して目の上の方に塵が行た時には、下を見る氣になり、又下の方に塵が入つた時は上を見るやうにする。これが最も大事な心得である。若し又上手に眼瞼を翻轉すことが出來れば取り易いが、これも自分では困難であるし、又不潔な指で以て眼瞼の裏を擦するは危險である、人に賴で、直ぐ取れることがあるが塵が上の奥の方に在る時は、一通眼瞼を飜したゞけでは見附からない、もう一つ折返さなければならぬ。然し斯樣な事は醫者でなければ、うまく出來ぬのみならず、不潔な指では宜敷ないから、一寸取れない時には餘りいぢり散らさず、水で洗ふのが最も善い。然し冷たい水で洗ふよりは、

[illegible]

る微溫の湯の方が善い。それからまた彼の紫鉛筆の粉が目に入つて、その爲に眼が潰れた例もあつて、紫鉛筆は禁せられたが、過つて斯樣なものが目に入つた時は、先づ茶で洗つたが善い、その他不潔な物が飛込だ場合には、只の水でも善いが又鹽を混せて洗へば善い。

耳內異物

外聽道即ち耳の孔には種々の物が這入ることがある。これは特に子供等に多いことで、豆類、小さな果實、小石、石筆の折片、木片などを、いたづらして耳の內に入れて取れなくなる。その他甲蟲、蚤、虱などの小動物が侵入することがある。これを取出さうとして指や耳搔で以て却て內の方へ押込むのが通常である。而してその異物のある場所にもよるが耳鳴がする、耳が遠くなる、或は聽えなくなる、又その物が角張つた物であれば傷をして疼痛が起り、甚しい時はその爲に嘔吐したり、痙攣、又癲癇發作の樣な症狀を起すことがあり、特にその物が鼓膜に觸れて居る樣な場合には疼痛も烈しく、これを破る危險がある。而して、も一つ進で鼓室內に入れば、これは凡ての症狀が烈しく、甚しい炎症を起して危險に陷ることがある。それで子供が耳に異物を入れた時には、よく耳の孔を見て、その異物の何であるかを確かめ、小石や小豆の樣なものであれば、耳を下にして、少し耳翼を上に引いて、輕く手掌で外聽道に向て敲けば出るが、石筆の折片の如き物であれば、確かにピンセットの樣なものでその端を挾める餘裕があれば善いが、さうでないと、これを取らうとして却て深く入れる。小さな物であればネボイドを以て微溫湯で稍〻強く洗へば、大抵洗ひ出すことが出來る、一般にこれが一番良い方法であるけれども、豆の類では軟かになつて膨れるから益〻出なくなるから此方法は用ひてはならぬ。耳鼻の方の醫者の所へ行けば、こんな物を取出す爲めに出來て居る種々の道具が備へてあるから、稍〻取出すに困難な場合には、餘りいぢらずに、靜にして醫者の所へ運



れて行くのが安全である。それから蜂の樣な小蟲が飛込めば、耳の內で騷ぐから、耳ががん〳〵して子供は泣き出す、大人でもこれは堪まらない。この時は昇汞とか石炭酸とかを滴し込んで蟲を殺して洗出すが、先づ濃い油を注してやれば善い。さうすれば蟲は餘り荒れ廻ることが出來ず、鼓膜や外聽道に傷つけることもなく、遂に死でしまふし、これを洗ひ出すにも都合が善い。周章てゝ耳掻で突つくのは危險で且つ多くは效がないものである。

身體の變性

倫敦のダウソン、ウイリアムソン氏が嘗て大英國醫學會の席上で、英國人の身體的變性といふことに就いて演説をしたことがあるが、それは英國人の身體も段々惡く變つて來るといふのである。而してその原因として、左の四個のことを舉げた。

（ア）母が妊娠中に過度の勞働をなすこと

（イ）哺乳兒榮養の不十分なること

（ウ）父の飲酒過度なること

（エ）子供の永く敦倫に在ること

尙ほホール氏はこれに附け加へて、近頃の敎育法も大に身體を惡くする傾があるといひ。又東ロンドンで調べた所では、猶太人の小兒は、他の者の小兒よりも健全である。これは猶太婦人は、自分でその兒を乳養するのに、英國人は、母乳の代りに、小兒粉とか、又は牛乳などで育てるからであるといふて居る。

（人性）

東京の魚

▲何處から來るか　日本國中から集まる。冬は朝鮮

近海や九州地方からも來る、其他北陸、東北、北海道からも來る、殊に近來は汽車や、汽船で冷藏庫を應用するから、冬に限らず遠方から運搬される、然し市場の大部分を占むるのは、矢張り房總地方及び東海道沿岸のものである。鯛は水戸銚子、沼津の方から來るのが一番うまい、北陸の鯛はまづい。マグロは房總、小田原地方から來るのがうまい、三陸沿海から來る所謂仙臺マグロは味は宜しくない方である。サンマは主として房州から來る。

▲賣上高　一年の賣上高は、其年の魚の捕れ方に由て同一でない。然し多く捕れた時でも賣れ殘るやうなことはない。それで、多く捕れた時は賣上高も多くなる。昨年などは各問屋の附上高の總額が凡そ五百萬圓とあつたが、實際の賣上高は、どうしても此の二倍即ち一千萬圓はあつたに相違ない。

▲魚市場　日本橋の魚市場組合に屬するものは、總て八百四十餘人ある。東京市内に配ばられる魚は、皆一度は此處を通過するのである。八百四十餘人と云ふのは、仲買が二百人ばかりあつて、其餘は問屋である。問屋は決して荷主から魚を買ひ取ることは出來ず、唯その委托を受けて、之を小賣人に渡す、仲買人は又直接に荷主と取引することは出來ず、問屋の手を經てこれを買取て更に小賣人に賣るのである。（家庭新聞）

地震の時の心得（今村博士）

ランプの火や、爐の火を消して寢ること。

東西にゆれる處は、東西の方向に飛び出すのは、危險である。

平家ならば、家の幅の狹い方に倒れるから、此の方向に出るのは危險である。

木造の家は二階は下より安全である。下が潰れて二階は安全に殘つた例がいくらもある。

火の用心さへよければ、家の内に居るのが安全です。

堅固な器物を楯に取つて、その傍なり下なりに居れ

ば安全である。

（明治之家庭）

地球の滿員期

地球表面の人口は、目下十四億六千七百萬人にして一平方哩に、三十一人の住民ある割合なるが、今此地球の全面積四千六百三十五平方哩を、農田、平原及び荒野の三つに區別するときは、農田は二千八百萬平方哩、平原は一千四百萬平方哩、荒野は四百萬平方哩あり。ラーエンスタイン氏は、凡そ幾千の人類が、此地球上に住ひ得るかに就きて述べて曰く、豐饒の土地は、一平方哩に二百七人の住民を有し得べきにより、是を標準として計算すれば、地球の、人類を養ひ得べき極度は、五十九億九千四百萬人とせり。同氏は、現在の國民增加率を、歐洲にては七分八厘、亞細亞は六分、亞弗利加は一割、濠洲三割北米は二割、南米は一割五分と豫算し、之を平均して、十ケ年間八分の人口增加を見るとして計算せるに、西暦二千七十二年、卽ち今日より百六十三年後に至れば、地球の人類は、既に滿員を告ぐべしとなり。

（某新聞）

味噌の話　（味噌屋の老番頭）

東京で用ゐらるゝ味噌の種類を舉げて見ると、江戸味噌、仙臺味噌、田舍味噌、三州味噌、尾崎味噌、白味噌、紅赤等である。江戸味噌は、味は甘い方で東京では七分通りこの味噌を使ひ、仙臺味噌は二分通り、其他が一分通りである。田舍味噌には非常に種類が多いが東京附近で出來るのが最も上等である、三州味噌は豆のみで造る特別製のものであるが普通の家では餘り使はない。尾崎味噌はたまりを取つた後の實ばかりであるから味がよくない。白味噌は上方地方は、よく用ゐるが、東京では慶事か凶事の外には餘り用ゐない。紅赤は今日では殆ど使はれない。

味噌汁を造るに、前の晩から摺つて置いて、朝に弱い火でグツ〳〵煮ては味が拔けて仕舞つてまづい。必ずその朝に摺つて、強い火で煮るに限る。特に味噌は摺れば摺るほど味が出るものである。但し三州味噌は味噌漉に入れて、水で洗ふ樣に靜かに溶かしてお汁にする、これは摺つたらまづくなつて仕方がない。紅赤は、牛肉や鳥肉などを煮る時に、擂鉢でよく摺り、絹漉にかけて漉し、味淋を加へて煮ればよい味がする。

腐たのを見別けるには、臭を嗅いで見ると、腐敗しかゝつたものは、かび臭く、更に進めば酒の臭がし次には酢つぱい香がする、味も變つて惡くなり、又酢い味のするのは腐つた證據である。

保存するには、味噌は濕氣を最も嫌ふものであるから、梅雨の時などは特に注意しなければならぬ。入物は瓶が最もよろしい。而して油紙の樣なものを味噌の上に張り、更に瓶の口を密閉して、外から濕氣が入らぬやうにして置く。新しいのを入れる時には入物をよく洗つて、中の水氣をよく乾して入れる。味噌を取出す時にも、眞中をほじり散らすことのないやうに、一度取れば、必ず後を直して置けば惡くなり方が大變に違ふ。買ふ時は樽買にした方が得であるが、夏はかびが生え易いから、冬には多く買つて夏は少しづゝ買ふ方がよい。

（明治之家庭）



質疑

問●（一）肋膜炎又は肺病患者轉地療養には海邊最も效多しと云ふ如何のものにや、又海邊には夏季冬季共に同效を奏するものにや或は夏季は冬季より勝れるものにや尚醫師に診察を受け全治を證明され候ても其後一二年は轉地療養せざれば再發するものに候や尚々全く全快の上は直に結婚するも差支なきや。

(二) 胃擴張病には平生服用する強壯劑又は全治の方法なきや。

(三) 風邪にて度々苦しむものあり、豫防法或は全治藥はなきや。

(四) 牛乳と煉印ミルクと孰れが勝れるや。

(五) 生後七ケ月の女兒に牛乳を三倍に、ミルクを十二倍に溶解、二時間毎に飲用せしむるが如何にや。

(六) 右小兒に牛乳を晝間は用ひ夜間はミルクを用ゆる加減か度々硬き屎にて通じ難く甚だ困り入候如何致し通じさせ宜しきや。

右の項々甚だ御面倒ながら御教示被成下度御願申上候也。

岐阜縣通常會員　篠田しづえ

答● (一) 肋膜炎及び肺病患者の轉地療養には海邊最も效多しとは限らず、肋膜炎も肺病もその性質時期等に由り可不可あり。海濱も地理上の關係により其の氣候に大差あり。夏季も冬季も轉地に依りて共に效を收め得べし、但し夏季には所謂寒冷海濱氣候を適用すべく、冬季は溫暖、乾燥及び濕潤海濱氣候をその狀況に應じて適用す。肋膜、肺病等の全治せる以上は、必ずしも其後一二年轉地療養せざれば再發するものとは云ふべからず、結婚亦不可なし、但し結核性の肋膜炎又は肺結核ならば假令恢復せりと稱するも決して油斷すべからず、此の如き人の病後新鮮にして塵埃少なき空氣中に生活するは望ましきことなり、一旦肺結核に侵されたる人の醫師に恢復せりと言はれたりとて直に結婚するは頗る考ふべきことなり。

(二) 胃擴張症に平生服用すべき特別の強壯劑なるものなし。只胃の運動性を高め、醱酵を防ぐ藥劑を用う。慢性胃擴張は難治の症なり、その原因も種々あり、兎に角胃の運動を要すること可成少なく、又胃の運動を防げざる食物を撰むこと第一なり。按摩、電氣、洗滌、其他種々の補助的療法ありて場合に依て應用せらる。

（三）頻囘感冒に罹らば、宜しく溫暖の時候より、乾性摩擦、灌注法、全身摩擦、冷水浴等の鍊固法を初め皮膚の抵抗力を強くすべきなり。

（四）善良のものならば牛乳の方よし。

（五）生後七ヶ月ならば牛乳二、湯一の割合にて可なり、コンデンスミルクは十二倍にて可なり、二時毎にて善し。

（六）夜間は段々與へぬ樣に慣らすがよし、便秘は何に因るか確ならず、兎に角輕き腹部の按摩、灌腸、緩下劑等を用ひて可なるも、先づ牛乳の割合を少し變へて見るがよし。

雜報



○危險なる夜具綿

內務省は、去る三十二年ペスト菌豫防の爲め清國、朝鮮、臺灣等の古綿襤褸を日本に輸入することを斷然禁止せるも、奸商等は支那の古綿襤褸を多量に買占め、稅關を通過せしむる爲め、見本として紡績の落綿一二梱を示し、以て稅關吏を瞞著し、過去十年間、殆んど公然橫濱、神戶の綿倉庫へペスト有菌鼠の巢窟たり安き古綿、襤褸を積み込み、更に之を府下南千住、荏原郡、日本橋、神田、淺草、深川、橫須賀等の綿繰工場に廻して打ち返し、日本全國の綿商に賣り込み居りしが、ペスト菌を傳播し易き此恐怖すべき古綿襤褸が、全國各戶に侵入し、夜具綿、著物綿となりつゝあることを看破せる品川警察署は大に驚き、本年七月より此の輸入奸商の探索に勉めたる結果、その一人は淸國上海に宏大なる支店を設け居り、兄弟共謀にて盛に密輸入を爲せるものなることを知り、神戶、橫濱兩稅關署に於ても爾來古綿襤褸らしき輸入品は、嚴重なる檢査を施して之が輸入を防げりと云ふ、

大日本婦人衞生會記事

○本會例會

本會にては豫告の如く本月四日午後一時半より女子職業學校內に於て例會を開き二木博士の講演ありき血の話と云ふ題にて初め血液循環の有樣、睡眠病の

蟲の寶物を顯微鏡にて供覽せしめられたるが何れも珍らしきことゝて聽衆一同の感興を引けるも一時に多人數の觀らるべくもあらず、止を得ず聽衆約三分一だけ先に觀ることゝして講演を始められたるが、先づ古代に於て人獸相鬪へる頃より人は既に血を見その生死に就て如何の關係あるかを知り、種々の思想臆說を懷きしより今日に至る迄の變遷を述べ、次でその色、その量、その成分、血球の種類並びに構造その性質、その數、之を運輸する心臟の力、循環の速度等に就き一々巧妙適切なる譬諭を以て說明せられ、それより黴菌と白血球との戰爭延いて免疫學上に於ける諸般の興味ある學說、その應用等に至るまで、さしも高尙なる專門的の事柄も、幾多の實驗と寫眞とに依り、且つは先生獨特の譬諭方便により、解し易くしてその悟り難きを覺えず、只面白く聽なされ、更に血液の衞生に說及ばんとせられしが、既に豫定の時間も過ぎ、尙ほ前に顯微鏡的標本を見られざる人々も殘り、且つは折惡しく會長、副會長も出席せられざるに斯くも興味あり、有益なる講話の餘りに惜しければさて此講演を二回に分ち、更に後半部を次回に讓られんことを乞へるに、快く承諾せられ、閉會後標本寫眞等の供覽あり、暫く別室に茶菓を供し、新年會の相談等ありて全く散會せるは日沒に近かりき。

當日出席役員氏名左の如し。

中濱よし子　鳩山春子　緒方悅子
羽田三緒子　松井正子　岡山こし子
田村喜代子　小川幸子　岡田德子
服部繁子　高木鐐子　長谷川仲子
（以上出席順）

○本會入會者

○武のぶよ子紹介
●埼玉縣浦和高等女學校内　贊成員　坂本勝藏

○中島久子紹介
●府下新宿停車場前　通常會員　田邊いさ子

○事務所中込
●牛込區築土前町　通常會員　井上松野子
●下谷區二長町五十一　通常會員　小川すかい子
●下谷區谷中眞鍋町一　通常會員　武田なか子

○齋木幹事紹介
●橫濱市西平沼　特別會員　平沼文子

（訂正）前號本欄内吉井しん子氏を通常會員とせるは特別會員の誤につき訂正す。

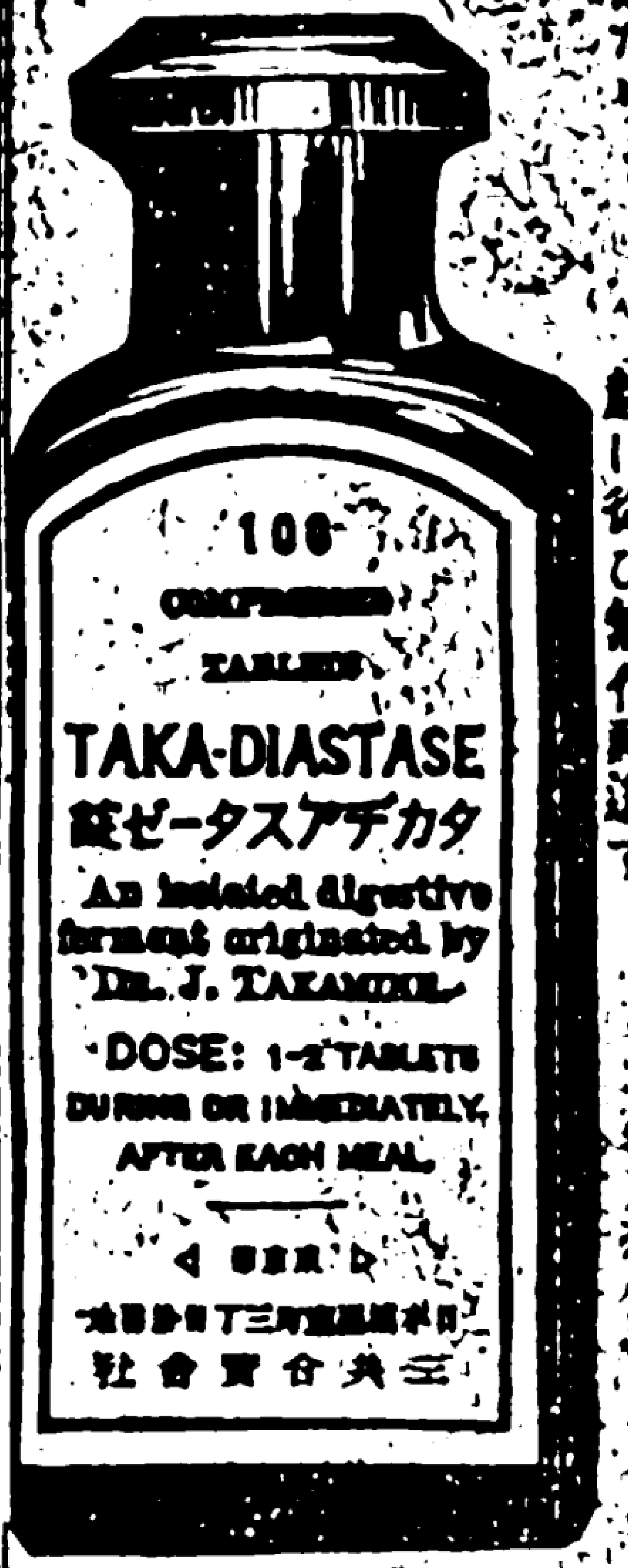
○轉居

●甲府市代官町四十五へ　淺田決
●京都市上京區室町通下立賣上ル東側へ　仙田花子
●神田區猿樂町十九大關氏へ　小林靜子
●神田區猿樂町十九へ　大關ちか子
●高崎衞戍病院鈴木芳之介方へ　鈴木臣子
●芝區白金臺町一ノ七十一へ　八卜島とく子
●京橋區宗十郎町八へ　大谷さく子

タカヂアスターゼ

●**消化不良**に就て熊本醫學專門學校長**谷口博士**は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の膨大、疼痛、溜飲、胸内瓦斯蓄積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと、又本邦消化機病學の泰斗**長與博士**は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、信ずべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因すればタカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる孰れも眞正品なり

世に幾多の摸造品及類似品あり**高**●**峰博士發見**のタカヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舖にて取次販賣す



●**消化力強**大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる**本田博士**の學位論文に徴するに坊間に販かる、多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し**數倍**乃至**十數倍**を用ゆるにあらざれば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は**眞正品**他は**摸造類似品**たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの說明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●**營養增進**の目的を以て虛弱者貧血者重病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力速に恢復するを見る、殊に**肺結核**患者に之を應用すれば其効力著明なりされば大阪高等醫學校長**佐多博士**は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所なりと、又在京の**栗本博士**は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、**柴山博士**も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧げたるを公示せられたり

●**藥効均等**論は輓近醫學者間に唱道せらる、所なり、內務省橫濱衛生試驗所長**西崎藥學士**の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なりこれパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・一—〇・三錠劑(〇・一三)なれば一錠—二錠每食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に言明す

（後附の一）

月刊美術雑誌

みづゑ

第五十八既刊

大下藤次郎主幹

毎月一回三日發行

一部送料共十八錢

六冊同 壹圓

高尚なる趣味に遊ぶことは、間接に衛生の旨に適つてゐます。『みづゑ』は水彩畫專門の美しい雑誌でして、毎號精巧なる原色版及石版彩色畫三葉以上のほかに、澤山の寫眞版が插んであります。講話、雑錄共に趣味津々たるもの。まアどんなに綺麗で上品でそして有益であるかは、試みに一冊を御注文になつて御覽下さい。『みづゑ』には又た特別讀者の設けがあつて、毎月小額の出金で、一ヶ年目に大家の水彩畫額面が一枚得られます。規定御入用の方は往復ハガキで御申越下さい。

發行所

東京小石川區關口駒井町

春鳥會

振替貯金東京六九六三番

新案特許 一〇三六二號 衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより舊式のもの丶如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髪の傳染病を媒介する憂なし

● 丸髷 金十五錢より 金七十五錢迄
● 島田髷 金三十錢より 金壹圓五十錢迄
● 銀杏髷 金二十錢より 金六十錢迄
● 送料 各八錢

● 諸かもじ製造販賣 東京市神田區豊島町十七番地 【振替貯金口座一八一八八番】 田中金三郎

● 小賣特約店 京橋南傳馬町 大西白牡丹 本郷三丁目 兼康 淺草駒形 百助 淺草駒形 紅勘 神田區須田町 三井屋 日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町二丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店
日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目 角島村商店
日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店
外全國到る所の小間物店にあり

（[illegible]附の四）

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回（第一日曜日）談話會を開き毎年一回（五月）總會を開き談話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會は私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ推任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回（第一日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル時ニハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

宇都宮支會

◎會告◎

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度願上候

振替口座東京 一〇六〇〇番

●前號の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十二年十一月 大日本婦人衛生會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し
○通常會員章
第參號
メッキ製拾貳錢、送費六錢
第貳號
正銀製四拾錢、送費六錢
○終身及特別會員章
第壹號
七拾錢（黑塗箱入）（送費九錢）
六拾錢（桐箱入）（送費六錢）

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御前納相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は本會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介
下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

東京市本郷區駒込追分町三十番地
編輯兼發行者　韮司秋次郎

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

明治四十二年十二月十六日印刷
明治四十二年十二月二十日發行
（毎月一回二十日發行）